

平成30年度文書館古文書実践講座（1班）
令和元年度文書館古文書実践講座（1班）

明治三年御奥日記を読む

—毛利敬親・元徳の日々—

第2版



毛利敬親（吉富家文書 156）



毛利元徳（柳原家文書 220）



旧山口藩庁・県庁（『防長名蹟』図書 290）

目次	
目次	1
解説	2
山口御屋形図	9
皇政復古七十年記念	10
凡例	11
明治三年御奥日記	12



「御奥日記」(右：表紙、左本文)

解説

平成三十年度・令和元年度の古文書実践講座1班は、「明治三年御奥日記」(毛利家文庫19日記50)をテキストにした。「御奥日記」は、明治三年(一八七〇)正月元日から十二月二十九日の知藩事毛利元徳および前当主毛利敬親の動静を記した記録である。平成三十年度は元旦から四月七日条まで、令和元年度は十月二十八日条まで解読した。残りは次年度解読の予定である。

一「御奥日記」の性格

「御奥日記」は、近代の毛利家編輯所で用いられた青色罫紙に記されており、日記の原本そのものではない。『毛利家文庫目録』によれば、毛利家編輯所員福井清介が原本から書き写したものであり、「原本は虫害著るしきため、謄写後焼却と原目録に記入あり」との説明がある。ただし後述のように、一部の時期については原本と思われる日記が毛利家文庫に残る。

日記は基本的に一日ごと、「知事様」あるいは「御表様」で始まる元徳の動静を記した条文と、「従二位様」あるいは「老公」で始まる敬親の動静を記した条文で構成される。さらに日によっては、行間や欄外に小さな文字で、維新政府(太政官・民部省他)からの通達、毛利家から政府への届出、毛利家政に関する決裁、藩の人事異動、他藩からの来訪者、その日の出来事に関する特記事項などが注記される。おそらく福井は、明治三年における元徳の動静を記す日記A、敬親の動静を記す日記B、という二種類の日記を並べて書き写しながら、その日の出来事につき必要と考えられる事柄を他の記録群C

から適宜書き入れ「御奥日記」を作成したと考えられる。それゆえ「御奥日記」は、純粋な「日記」というよりも、福井の編纂物としての性格が強い。

福井は、毛利家編輯所員であった明治二十六〜三十年(一八九三〜九七)頃、脱隊騒動に関する明治二〜四年の資料を集め「脱隊暴動紀事材料」全五冊(毛利家文庫68諸隊115)を編纂している(石川卓美・田中彰編『奇兵隊反乱史料脱隊暴動一件紀事材料』として刊行)。おそらく「御奥日記」も同じ頃編纂されたと思われる。なお福井については、広田暢久「編者福井清介と毛利家明治維新史編纂事業」(『脱隊暴動一件紀事材料』収録)参照。

二「御奥日記」の内容 *解読分に関して

(1) 元徳・敬親の居所

前述のように、「御奥日記」には元徳および敬親の日々の動きが記される。元徳・敬親がその日の何時にどこへ行き、どんな行動をしたのかを中心に、面会者、献上物、その日の食事、健康状態、飲み薬などが記載される。

明治二年一月の版籍奉還の上表後、六月四日敬親は家督を元徳に譲り、同年六月十七日に元徳が山口藩知事に任命される(各支藩も、豊浦藩は毛利元敏、徳山藩は毛利元蕃、清末藩は毛利元純、岩国藩は吉川経健が知藩事となる)。通常の元徳は、御屋形(敬親居所・藩庁)近くにある伊勢門前の五十鈴御殿に住み、朝御殿を出て御屋形に出庁して政務を執り、夕方御殿に帰るといふパターンであった。

御屋形は表部分が藩庁(明治三年四月に「議事館」から改称)と

して使われ、奥部分が敬親および夫人の居所とされた。豊栄神社近くに敬親の隠居所として野田御殿の建築が進められたが、敬親は明治四年三月二十八日に死去したため、敬親が野田御殿に入ることはなかった。敬親は、通常御屋形内で過ごし、時に湯田(三月十一日)、宮野(同晦日)、御堀の外郎屋(同二十三日)、仁保の水車場(四月朔日)などに遠出することもあった。ただし脱隊騒動中は、御屋形内の小座敷で元徳および支藩主たちと協議したり、騒動終結後、来藩中の西郷隆盛に小座敷で面会するなどしている(二月十三日)。

(2) 脱隊騒動

騒動と元徳・敬親 明治三年は脱隊騒動が藩を揺るがせた年であり、一月下旬から二月上旬にかけ山口の御屋形は騒動の中心地となる。日記各所に関係記事がみえる。

明治二年十一月、藩は維新政府の兵制改革方針に従い、諸隊兵士の選抜精選による常備軍編制に着手する。これに不満を持った諸隊士(遊撃隊士や脱隊兵)が不穏な動きを見せ始め、上官弾劾の上書を提出し、十二月には諸隊士二〇〇人が宮市(現防府市)に屯集する事態に至る。同月には美祢郡岩永村(現美祢市)で百姓一揆も起きる。藩内が騒然とする中、明治三年元旦を迎える。

一月上旬、元徳・敬親および年賀のため来山中の支藩主ならびに藩大参事らで事態打開が検討される。日記には、元徳・敬親および支藩主らが、三日、四日、六日、九日、十二日、十三日に御屋形内の小座敷で会議を行ったことが記される。十三日条には脱隊諸隊士への説諭が行われたことを示す、「諸隊之者被召出、御意被仰聞候事」

との記載がある。

動きは一旦鎮静化するが、一月下旬再び激化し、二十一日に脱隊諸隊士が御屋形を囲み、二十二日には脱隊士四〇名が御屋形内へ乱入、旧上官らの処分を迫る。御屋形を包囲する諸隊士は日ごとに増え、館内への食糧搬入も困難になったとされる。日記によれば、小座敷での会議が二十日、二十二日にも行われており、二十二日条には、再び脱隊士へ説諭したことを示す「諸隊之者被召出、御意被仰聞候事」との記載がある。

なお元徳に関しては、一月二十一日条に「廿二日方二月廿一日迄之諸事御籠城中故不審」とあり、一月二十二日条から二月二十一日条まで元徳の動静に関する記事を欠く。騒動に伴い元徳が五十鈴御殿に戻らず、日記(日記A)の記主(担当役人)が元徳の動静を把握できなかった状況を示す。

騒動が激化する中で、元徳・敬親とも投棄に関する記述が多くなる。両人の不安な心理状態ゆえであろうか。ただし、諸隊士による館包囲中も、鯨身(二十九日)、白魚(二月三日)、鶏、海老(同七日)などが敬親に献上されたという記事がみえ、御屋形が完全に封鎖されていたわけでもないようである。

二十三日、藩は萩から干城隊(藩士を中心とする隊)を呼び寄せ御屋形の守衛にあたらせようとするが、脱隊諸隊士側は佐々並(現萩市)に兵を派遣しこれを阻止する動きに出る。二十三日条に井上庸助・山県篤蔵(元徳近習)が干城隊への使者として萩に派遣されたこと、二十四日条に「清末様佐々並へ御出被成」とあり、清末藩

知事毛利元純が隊士懇諭のため佐々並に派遣されたことが記される。

明治二年年末に帰藩していた木戸孝允は、騒動激化を憂い、ついに四支藩の協力を得て騒動の武力鎮圧を決め、二月三日脱隊士討伐の檄文を各方面に送る。二月八日、木戸自らが率いる第一軍が小郡から柳井田関門へ迫り、脱隊士との激戦を制し山口へと進む。豊浦藩知事率いる第二軍は厚狭郡山野井村（現山陽小野田市）に拠る脱隊士を破り、徳山・岩国藩兵を中心とする第三軍は勝坂関門を突破した。戦闘は八・九日でほぼ終結し、山口に進撃した三軍により、十日、館の包囲が解かれ脱隊諸隊士の多くが投降した。ここに山口での脱隊騒動はひとまず終結する。二月十一日条に「十二時比豊浦様御出、御四藩様其外諸兵隊参着二付、於御庭御目見被仰付候事」とある。御屋形の包囲が解け、元徳・敬親が豊浦藩知事をはじめ三軍の兵を御屋形の庭で閲兵したことを示す。

騒動の余波 こののち、騒動に関わった諸隊士の処罰が急ぎ決定され、三月には首謀者二七名が斬首、その他の者も遠島・投獄などの処分が下された。しかし、四月に入っても余波は続く。四月五日条に「上ノ関戦争相始め」とあるように、脱隊兵が平生村（現平生町）の大野毛利家の屋敷を襲撃し、武器弾薬を奪う動きが起きる（すぐに鎮圧）。また、同七日条に「徳地にて戦争相始」とあるように、佐波郡徳地（現山口市）の諸村でも脱隊兵による騒動が起きた（八日鎮圧）。日記本文ではないが、「小郡・三田尻・徳地兇徒再挙ノ模様ノ報至ル」との記事もある。

大久保利通・西郷隆盛・三条実美 騒動中、一月十五日に薩摩藩の

大久保利通・黒田清隆が来藩しており、元徳が客館で面会し饗応した。また一月十八日には三条実美の使者森寺国之助が来藩し、元徳が客館で面会している。騒動終結後、二月二十四日には敬親が小座敷で薩摩藩使者の西郷隆盛に面会している。

木戸孝允 脱退騒動時の木戸孝允の動向につき、日記には二ヶ所記載がある。ひとつは正月元日条で、この日木戸が元徳・敬親に拝謁したことが記されている。『木戸孝允日記』の同日条には、「両君公に拝謁す、御手^マを賜ふ、御裏に出拝謁す、新御裏同断、いづれも祝酒あり、容堂公御送り之今釋書幅を相納む」とある。

また、騒動鎮圧直後の二月十三日条に、敬親から木戸へ「シヤハン（シヤンパン）一瓶が下賜されたことが記されている。前述のようにこの日山口には薩摩藩から派遣された西郷隆盛が滞在しており、敬親に拝謁した。『木戸孝允日記』同日条には、「館多事なり、今日西郷等に拝謁あり、夜又西郷を訪ふ、散乱の残徒日々出て降伏す」とある。騒動鎮圧の功をねぎらう意味で敬親が下賜したであろうシヤンパンを、木戸は夜、西郷と一緒に飲んだのかもしれない。

宣撫使 脱隊騒動鎮圧後、維新政府から派遣された宣撫使徳大寺実則一行が来藩しており、その記事がある。二月二十六日、翌日宣撫使一行が三田尻に着艦するとの報が届く。二十七日、一行三田尻着、二十九日、元徳が杵村（現山口市）まで一行を出迎え、その後山口の客館で勅使徳大寺と面会し勅書を賜る。毎日元徳客館へ。三月二日、元徳・敬親が客館で勅使一行を饗応。三日、一行帰還。敬親は客館で見送り。元徳は小郡まで同行し同所御茶屋で御暇乞いをして

いる。

各藩の使者 脱隊騒動鎮圧後、各藩から多数の使者が来藩して元徳・敬親に面会しており、その使者名、献上品などの記載がある。

来藩した藩は、佐賀藩（二月二十六日）、対馬厳原藩（三月四日・五日・二十日）、久留米藩（同五日）、新谷藩（同八日）、森藩（同十日）、鹿児島藩（同十四日）、徳島藩（同十五・十七日）、豊津藩（同二十日）、宇和島藩（同二十三日）、岡藩（同二十五日）、村松藩（四月二日）、飫肥藩（四月五日）、臼杵藩（四月十日）。

（3）元徳の鹿児島行き

五月二日～六日、元徳は鹿児島を訪問する。

日記によれば、訪問は四月十五日に正式決定している。木戸孝允、杉孫七郎らが同行した。『防長回天史』（第六編下・第四十二章）はこの訪問の目的につき、「薩藩史料」を引用して、「五月二日山口藩知事毛利元徳、木戸孝允外十数人ヲ随へ来鹿ス、藩内騒擾ノ慰問ヲ謝シ、且ツ共ニ力ヲ朝廷ニ尽サンコトヲ約スルナリ」とする。

四月二十一日、元徳一行は山口を発ち、同日三田尻から乙丑丸に乗船して鹿児島へ向け出発する。二十二日、赤間関着。翌日豊浦招魂場を訪れる。二十四日、赤間関を発ち、肥前呼子着。二十五日、長崎に寄港し二十八日まで滞在。長崎では伊佐村製鉄所や外国商館、グラバー邸などを訪れる。また、「写真江御出」（二十六日）、「写真師御旅館へ来る」（二十八日）などの記述があるように、写真撮影も行われた。『木戸孝允日記』には「写真師上野彦馬を訪ひ上下一統連立を写す」とある。この時撮影された写真が県立山口博物館に所蔵

されている（下写真）。

二十九日、長崎発。昼、天草沖で艦が故障し修理した。

五月朔日、薩摩島崎へ着。串木野に上陸し、そこから小舟で市来へ向かい同所泊。串木野の常備兵から鯛・玉子（鶏卵）、市来役中から「亀ノ玉」、交肴、酒の献上を受ける。二日、市来発、昼、伊集院で休憩、夜七時に鹿児島の本陣に到着する。

三日、午前十時に鹿児島藩知事島津忠義が本陣来訪。午後三時に台場、招魂場などを訪れる。四日、集成館を見学、のち「磯の茶屋」（仙巖園）で饗応を受ける。夜八時帰館。五日午後三時に鹿児島城（鶴丸城）を訪れる。七時三十分帰館。六日鹿児島発。

七・八日は条文を欠くが、「忠正公一代編年史」によれば、七日に長崎に着き、八日深夜に長崎を出航している。

九日、六連島沖に繋船。十日、赤間関着、長府泊（本陣は長井屋吉蔵邸）。清末藩知事毛利元純が来訪。十一日、豊浦藩知事毛利元敏とともに清末邸を訪れる。午後五時長府帰館、六時に立ち、七時に赤間関着、同所泊。十二日、午前七時三十分赤間関発、午後一時三



毛利元徳・木戸孝允ほか写真（県立山口博物館蔵）

十分に三田尻に着き、休憩後、三時三十分に出発。八時、山口の五十鈴御殿に帰着し、二日間鹿兒島訪問が終了した。

なお、元徳から敬親へ薩摩土産として、ビール、杉重、カステラなどが届けられている（五月十五日条）。

（４）敬親の東京行き

鹿兒島から戻った元徳と入れ替わるように、五月二十二日から敬親が東京へ赴き、十月まで長期滞在する。

脱退騒動の余波が残る四月五日、参議広沢真臣が東京より一時帰藩した（同日条）。これは、維新政府から「両公ヲ輔翼シテ藩政改革ニ参与尽力スベキ勅命アリシニ因ル」（『防長回天史』第六編下・第四十二章）ものであった。その際広沢には、維新政府から敬親への沙汰（従二位（毛利敬親）儀、藩政改革大要目途相立候上者兼而御沙汰之通早々東下可致トノ御事）、すなわち脱退騒動後の政情を鎮め、藩政改革の目途がつき次第、東京に来るようにとの指示が伝えられた（『忠正公実録』十二）。敬親の東京行きは、この「御沙汰」を受けてのものであった。

二十二日夜、乙丑丸で三田尻を出航した敬親一行は、二十五日、兵庫に寄港、神戸の異人館、和田神社、須磨などを訪れた後、二十九日、「異艦」に乗り換え東京へ出発する。「忠正公実録」によれば、この「異艦」とはアメリカ船（「米利堅船」）であった。六月朔日、横浜に着き、二日に東京の神田邸（大手町）に入る。

七日に初参内を遂げた後、十日に大納言徳大寺実則・岩倉具視、正親町三条実愛、鍋島直正らを訪問。十五日、再び参内。十六日に

東京都知事壬生基修、三条実美、十八日に東久世通禧・中山忠能・沢宣嘉・万里小路博房・伊達宗城、二十二日に木戸孝允、二十六日に有栖川熾仁親王、二十八日に山内容堂を訪問するなど多忙な日々を送る。このうち敬親は、十月中旬まで東京に滞在するが、日記の七・九月条には政府高官や諸大名との面談といった記事はほとんどみえない。八月十一日の広沢邸訪問、九月二十六日の木戸邸訪問が記されている程度である（贈答品のやりとりはある）。「御奥日記」の東京滞在中の記事は、記述の類似性から、御配膳役が記した「敬親公御旅中東京日記」（4忠正公86）が元になったと推測されるが、この日記の性格上、敬親の動向すべてが記されていない可能性が高く、他記録との比較検討が必要である。

目を引く記事として、隅田川での蒸気船への乗船（六月二十四日）、東京駐在士族への御目見え（七月二十三日）、「甲鉄艦」乗船（八月十三日）、医師ボードウィンによる診察（十月四日）などがある。

十月朔日、敬親は参内し、夕方、紀州邸に三条実美・岩倉具視らを招き宴会を催した。『木戸孝允日記』には「老公より有栖宮三岩中徳正宇和島公を御招きあり」とある。東京を発つ前のお別れの宴という意味合いであろうか。翌日も参内し、夕方に帰還。十二日にも参内。これが最後の参内となった。

敬親の帰山について日記に詳しい記述はなく、十月七日程に「従二位様（敬親）」の帰藩願が聞き届けられ、今月中旬に東京を出発されるとの連絡があったと記すのみである。『木戸孝允日記』によれば、敬親一行は十四日に東京神田邸を発ち、神奈川泊。十五日は鎌倉に

行き、同所泊。十六日は「八幡宮、鎌倉宮、廣元・季光二公の墓に詣」るなどしたのち、横須賀で泊。十七・十八日は横浜に滞在し、十九日に帰山の途についている。

(5) 元徳の動向(鹿児島より帰国後)

五月十二日鹿児島より戻った元徳も、敬親を見送った後、あわただしい日々を送る。

六月朔日、元徳は山口を発ち、十七日まで萩に長期滞在する。萩では萩在住士族中の拝謁、補備隊・騎馬隊の稽古および三兵合操調練などの上覧、諸神社参詣、明倫館・砲兵塾での聴講などを行っている。十三日には川上村(現萩市)に出向き川遊びもした。萩での長期滞在は、脱退騒動以後いまだ安定化したとはいえない中、萩の民情を落着かせる意図があったのではないかと推測される。

このち、七月六・八日および八月十・十二日には三田尻、十月八日・十三日には三田尻を経由して徳山を訪れている。徳山では新式銃陣を上覧している。

山口では、朝出庁前に乗馬練習(「騎兵稽古」「騎馬運動」)を行う日が多くあり、そのほか、土族第二大隊や補備隊の閲兵、剣術・水練稽古上覧などの記事もみえる。元徳が兵の調練に力を入れていた姿がみてとれる。

元徳自身が馬で出かけることも多く、吉敷の龍蔵寺(七月朔日)や宮野(同三日)へ行ったほか、小郡・仁保津を訪れ、大庄屋・庄屋を務めた豪農林勇蔵や秋本新蔵の屋敷に立ち寄ることもあった(七月十六日、同二十六日、八月二十一日等)。秋にはたびたび茸狩

りに出かけ、九月十一日に問田、二十二日に桜畠、十月六日はふたたび問田へ行っている。これらの行動も、単なる外出好きということではなく、地域の中で積極的に知藩事自らの姿を見せ、民情安定化を図る意図があったのではないかと思われる。

(6) その他

そのほか、目についた記事を列挙する。

正月 元日の記事からは、元日における毛利家の儀式内容、食事などの様子がわかる。

神祭への変更 三月晦日条には「先般洞春公者豊栄神社宣下被為在候二付、向後神祭一途二被仰付、御仏祭之義ハ被差止候事」とあり、毛利家が仏祭から神祭へと大きく変更したことが記されている。

改名 四月七日条は、この日元徳が諱を廣封(ひろあつ)から元徳に改名したことを記す。

藩庁唱え 四月二十日条は、この日「議事館」が「藩庁」と改称されたことを記す。

角力 五月二十二日、元徳一行は午後屋形を出て、山口市巾での角力興行を見物している。

三男誕生 十月二十日、元徳室安子が三男・三郎(幼名茂丸)を生む。二十七日条に命名茂丸のこと、二十八日条に七夜御祝のことにつき記事がみえる。なおこれ以前、六月二十八日条に「着帯祝」の記事がみえる。

献上物 藩内外からの献上物の記載が多数あり、食べ物では蛤(元日に楫取素彦が献上)、鶴、鯨身、白魚、鯛、塩鰯、鴨、味噌漬け鮎・

牡蠣、夏橙などの品がみえる。脱隊騒動鎮圧後の二月十四日には百姓から蕨、柚子のほか、山口の名水として名高い「柳之水」が敬親に献上されている。

食べ物 三月十九日条に「パン」、同二十三日条に御堀の外郎屋、同二十七日条に石州三瓶の蕎麦粉の記載がある。ビール、カステラ、西洋菓子などの記載も各所にみえる。

忠正公一代編年史との関係 幕末～明治四年の敬親および元徳の動向については、「忠正公一代編年史」一一一冊（毛利家文庫 59 忠正公一代編年史）が詳しく、年表的な利用に便利である。ただし、両人の日常のあれこれ（例えば食事や投薬、時々の行動など）については「御奥日記」の記載が豊富である。「御奥日記」と「両公伝史料」などをあわせ利用することで、当該期の両人の活動をより細かく理解することができるだろう。

【参考】

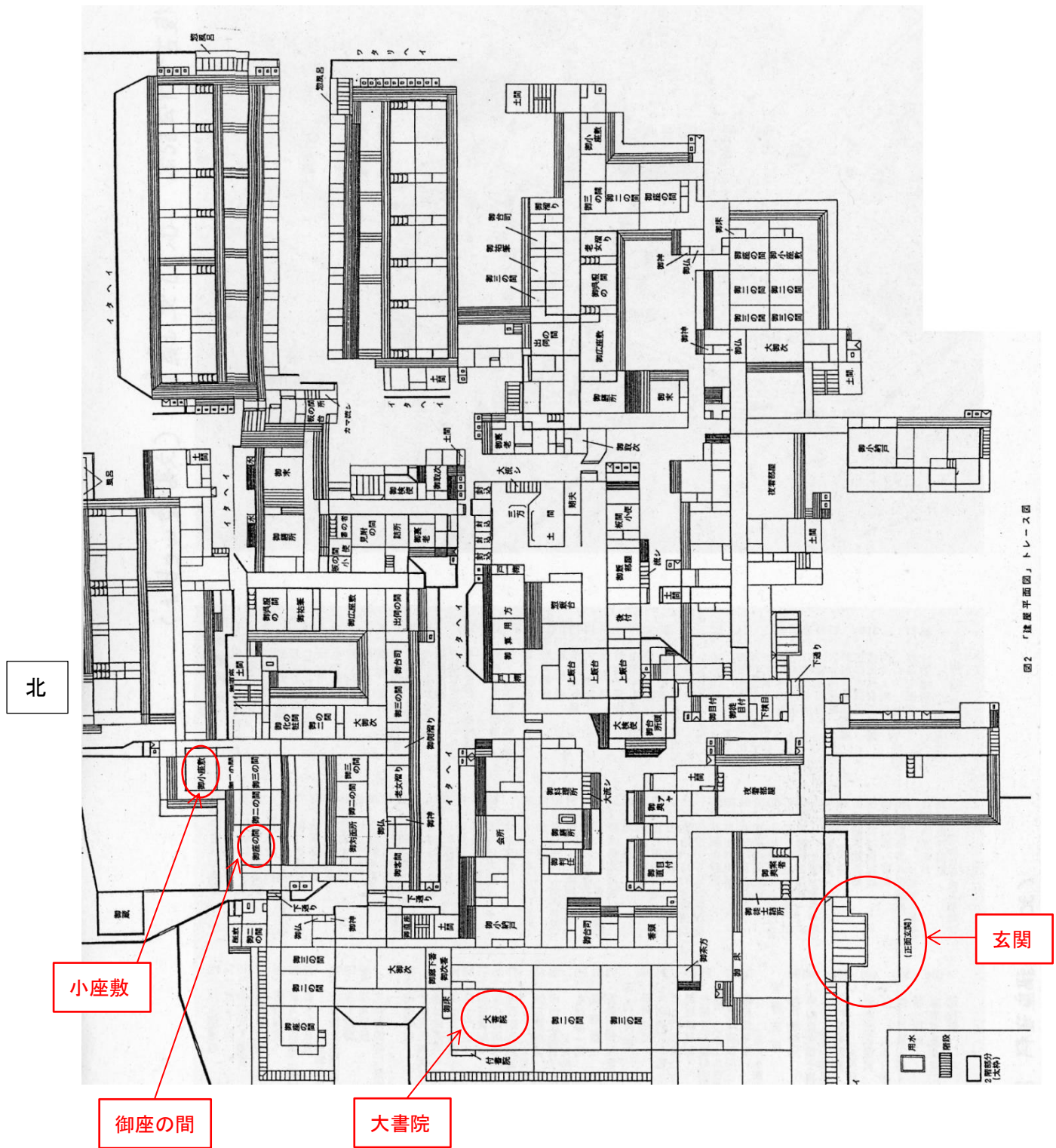
- ・『山口県政史 上』第一編第一章（山口県文書館 一九七一年）
- ・石川卓美・田中彰編『奇兵隊反乱史料脱隊暴動一件紀事材料』（マツノ書店 一九八一年）
- ・田村幸香「明治二～三年における諸隊脱隊騒動について」（『山口県史研究』第19号 二〇一一年）

○平成30年度古文書実践講座1班 受講生

齋藤美穂子・中村省一・高山慎吾・山本公吉・松永恵子・坪内以延（順不同）
〈サポート〉山崎一郎・和田秀作（山口県文書館）

○令和元年度古文書実践講座1班 受講生

齋藤美穂子・坪内以延・相島宏美・中村省一・高山慎吾・松永恵子・山本公吉・長光未来（順不同）
〈サポート〉山崎一郎・和田秀作（山口県文書館）



山口御屋形図

- ・山田 稔氏「史料紹介『山口御屋形図』について」(『山口県立山口博物館研究報告』第14号 1988年)より引用。原図は県立山口博物館蔵。
- ・山田氏は、現存する御屋形の写真などを参考にすると図右側(この頁上部)に描かれる建物群(元徳居所)が存在したとは考えにくいとし、「本図は山口御屋形の予定図の可能性が高い」としている。
- ・図中の○囲みおよび注記は引用に伴い挿入したもの。



1. 山口県庁・旧藩庁・御屋形 3. 五十鈴御殿（毛利元徳居館） 14. 野田御殿
16. 清末毛利邸 40. 徳山毛利邸 58. 山口客館
60. 岩国吉川邸

凡例

一、当史料は平成30年度・令和元年度古文書実践講座1班が解読したものである。

一、漢字は原則として常用漢字を使用した。

一、変体仮名及び慣用的合字は、「江」(え)、「而」(て)、「者」(は)を除いて原則として平仮名に改めた。なお、「ゝ」はそのままとした。

一、適宜、読点および並列点を付した。

一、抹消部分は原則として省略し、訂正部分をそのまま本文とした。

一、説明として加えた傍注は()で示した。

一、本文右上に小活字()書きで付した数字は、講座で用いたテキストの頁数を示している。頁の区切りには破線を入れた。



旧山口藩庁写真 (戦前内務部 169-1)

明治三年御奥日記

①
(表紙)

明治三年
御奥日記

②
(一八七〇年)

明治三年庚午

正月元日晴

御雑煎
福来菓子
御喰積
御福茶
寒酒
歳男
御雑煮

〔毛利元徳〕
御表様朝於御座之間御雑煎被召上、引続き御喰積・御福来菓子・

御福茶差上、其外御嘉例之御規式被遊御寒酒之節、御歳男御加之

役江於御間之内御盃頂戴被仰付候事○朝御膳二汁菜被召上

候筈之処、御三度と御振替被仰付候事○九字御供揃二而御屋形江

御出、於御座之間御両殿様御雑煮召上り濟、御書院江出御、

御嘉例之通上段御規式を始、引続御家来中御目見被仰付、右

相濟御二度御膳被召上、又々出御、御小座敷之御式迄無滞被為

相濟候事○大御前様江御年始被仰上、四字御帰殿被遊候事

③
(小笠原男也カ)

御歳男男也、御加彦三、御添加小介江被仰付相勤候事○

明日御社参二付、御表二御静寝被遊候事○御夕飯後物被召上

候二付早晚之通御廻し致候、夜中御裏方御上り、下御廻し相成頂戴

仕候事○内藤唯輔当分之内御配膳座御用取計被仰付候事

(2頁上部欄外書入)

記、上土相濟、山口居合南郡ノ
者被召出候事

〔毛利敬親〕
從二位様暁七字御目覚、御表江御帰り被遊、御枕昆布・御若手水・御湯・

御櫛被為濟、平常之通御膳召上り、次而御直垂被為召御座之間

二出御掛ケ御拝被遊、御札守御戴き被遊候事、次二御座之間二於而

御喰積・御福来菓子・大福之御茶差上、御寒酒被召上、続而御

表様御出、御三献御雑煮御上り合被為濟一応御小座敷江御出被

④

被遊、夫方御書院御出御、上壇之御規式有之、引続キ惣之御目

見被仰付候事○其次御座之間御出座、御両殿様御揃二而木戸

準一郎被召出御目見被仰付、其次町人中江御通り懸ケ御目見被

仰付候事○御二度二壺汁三菜被召上、直様御裏御入り被遊、

例之通御吸物御肴三種差廻し之事○鷹一羽清未様方御

到来二付、木戸準一郎江頂戴被仰付候事○蛤一苞楢取素彦方

御内献致候二付御裏江御廻し候事

⑤

正月二日晴

御表様朝御拝相濟、於御座之間昨日之通御規式被遊候、尤御寒酒ハ

不被遊候事○九字御供揃二而豊栄様其外五社江御参詣

被遊、御帰懸ケ御屋形江御出、五時御帰殿被遊候事○今日御書

初め被遊候事○御夕飯後物被召上候二付早晚之通御裏江御廻

し致、夜中御下り頂戴被仰付候事

從二位様御平日之通御膳後御帰被遊、御二度後御用被聞召候事、

御末家様方御出被成、於御小座敷被遊御逢御熨斗差出候事

御末家様

枕昆布

若手水

御湯

御櫛

御喰積

福来菓子

大福茶

寒酒

雑煮

木戸孝允

町人中御目見

鷹

毛利元純

蛤

楢取素彦

豊栄神社・五
社参詣

内藤唯輔

菓子箱
毛利元著
散菓

○御菓子箱毛利元著様方御到来ニ付御裏廻し之事○御散菓

差上候事○御吸物・御肴三種差廻し之事

(5頁上部欄外書)

北郡ノ面々お目見へ之事

正月三日曇

御表様朝御拝相済、御規式昨日之通り、九字御供揃ニ而御屋形

料理初

江御出、御書院御出座、御嘉例之通御料理初御規式無御滞

節分

被為相済、三字三十分御帰殿、無間御入被遊候事○御夕飯後物例之通御廻し、今日ハ節分ニ付御肴三種之所一種増差上候事○

交肴

今日於御台司家従を始御酒頂戴被仰付、尚御下りをも頂戴之事

鴨

○御交肴一折・鴨二羽徳山様方被為進ニ付、鴨老羽ハ御裏廻し、

残り老羽ハ御手置之事

⑦

從二位様昨日之通御膳後御帰り被遊、御二度後御用被聞召、三字

散菓

御入之事○御夕飯後物御肴三種差廻候事、御散菓も差上候事

正月四日曇

浦記、朝不模様之処取直し天氣相成

御表様朝御拝相済、十一字御出門ニ而御屋形江御出被遊、五字

御帰殿、無間御入被遊候事

小座敷會議
鶴
散菓

從二位様昨日之通御二度後、御四藩様御出御小座敷にて御會議

(吉川経建)

有之○岩国様より鶴一羽被進候事○御散菓差上候事

⑧

正月五日曇夕雨

浦記、御改正ニ付粟屋耕助・山内梅三郎・益田石見ニ御用掛被仰付、陪臣ハ若月松十郎・増野順三・津森箇郎へ沙汰相成候由ニ候事

御表様朝八字之御供揃ニ而御屋形江御出、御両殿様御書院江

鶴

御出、山口社寺江御目見被仰付相済御用被遊、五字御帰被遊候事、

鯨身

○鶴老羽吉川様御出山之御土産として被為進ニ付、御三度ニ

鯨身

被召上、残り御裏江廻し、其余ハ家従・近侍へ頂戴被仰付候事、

鯨身

○捕鯨御注進として赤身老貫目差出候処、宍戸源太郎手紙相添差出

鯨身

候ニ付、御裏家従其外江頂戴被仰付候事

從二位様朝昨日之通、十二字御両殿様御書院御出座、社寺江

鶴

御目見被仰付○御二度御用被聞召、四字御入被遊○吉川様

鶴

方御到来之鶴片身御廻し致、残り御手置致候事○御散菓

鯨身

差上候事○御夕飯後御肴三種差廻候事、昨日御裏廻し致

鯨身

候残り赤身御裏廻し致候事○五字三十分御入之事

正月六日曇夜雨

(毛利元著)

知事様朝少々御頭痛御悩被遊、御裏ニ而御膳被召上、九字御表

平茸

江御帰り被遊御拝相済、十字方御屋形江御出、五字三十分御帰殿之

平茸

事○平茸老台御屋形江下方差出候由ニ而、宍戸源太郎手紙

平茸

相添御配分之由申越候ニ付、御覧ニ入、御裏江御廻し致候事○歳之夜

⑩

ニ付、御夕飯後物差上方、夜中御盃下り頂戴被仰付候事

小座敷會議

從二位様御二度後御四藩様御出殿、御小座敷ニ於て御會議有

小座敷會議

之、御茶・御菓子差上候事○例之通御夕飯後物御肴三種

小座敷會議

差廻候事○昨日之残赤身御廻し致○五字三十分御入之事

おその御仕成

明治三年正月五日及御聞

(御親側室)

此度おその殿御仕成

定被仰付候付、左之通

一千鯛一箱宛

殿様(元徳)

大殿様(敬憲)

御前様(元徳)

大御前様(敬親)

興丸様(元徳)

御奥様(毛利)

禎之丞様(偏明・敬親)

芳春院様(九代高房側室)

真章院様(大野毛利親親側室)

右為御札御使者を以

被差上之

右之通可被仰付哉

但、従前之御振合を以

遂詮議奉伺候

干鯛一箱充

御休息様江

右此度御仕成定被仰付

候、為御札一種充被差

上候、依之被成御祝

御向殿様方近侍御使

者を以被進之、

一同一箱充

御同方様江

右

御前様

大御前様

興丸様

被勤止

徳山

御奥様

禎之丞様

芳春院様

真章院様

右同断二付、用事用務

御使者を以被進、尤

御住居相済候

上々様方方ハ奉札を以

被進之

本書御住
居相済
上々様方
へ御使者
被差遣
候儀ハ不
易事二付
奉札を以
被差上候
様
可被仰
付哉

正月七日終日小雨

知事様朝御拝済、御定刻御屋形へ御出、五字御帰殿、御三度済

御入被遊候事○御末家様方年始御祝詞之御使者被差出二付、

於御屋形御使者被召出候、此日ハ御直垂被為召候事

.....
⁽¹⁾ (長府毛利・元敏) (徳山毛利) (清本毛利)

元懋様、元蕃様、元純様御年始として御出殿、御座敷通り

御裏江御出被成、御夕飯後物御同食被成、夜中八字過御^(マ)

御退散被成候事○御交肴一折、長府様方御到来入御覧、御手置

之事

従二位様御二度後御用被聞召、四字御入被遊候事○御肴一折長府様

より御到来二付、御酒老樽御台処江御買揚致、大参事・小参事を始

頂戴被仰付候事○御夕飯後物御肴三種御吸物差廻候事

正月八日曇り

御表様朝御拝、御定法之通儀事館へ御出、六字御帰殿、無間御入之事、
.....^(ママ)

.....⁽¹²⁾
従二位様御二度後御用被聞召、四字御入之事○北川清、白魚差出し

御台処二御手置致候事○今日御散薬召上候事^(ママ、差上カ)

正月九日雪

御表様今朝御風氣被為在候二付、御裏二而御脚湯、且御膳御廻し

致、九字御表御帰り被遊候事○朝御拝済、議事館江御出

脚湯

北川清
白魚

交肴

未家様年始
使者

從二位様昨日之通り御丸薬差上候○御二度後御用被聞召、四字過小座敷會議
御末家様方被成御出、於御小座敷御會議、六字御帰りに被成候事

砂糖
○昨日之白魚、御裏廻し致候事○御砂糖も少々御廻し之事

正月十日降雪

御表様今朝御膳済、御裏より御帰り二相成、御拝被遊候而第十一字
議事館江御出、第三字御帰殿○御風氣被為在、御泡剤差上候事
豊栄神社神擧之儀、御本社御造宮御祭典式御社料其外十一廉、祭祀局伺之通

從二位様昨日之通御丸薬差上候事○御二度後御用被聞召、四字三十分
御入被遊候事

正月十一日晴夕曇

御表様今朝昨日之通、第十二字議事館江御出、第四字過御帰殿○
從二位様昨日之通御丸薬之事○御二度後御用被聞召、四字御入被遊
○御夕飯後物御肴三種御吸物差廻候事

正月十二日

(議事館)
御表様今朝昨日之如し、第十二字議事官御出、第八字御帰殿、夜中
御帰殿之上、侍医被召出御伺被仰付、御頭痛被為在、御散剂
侍医

今夕より差上候事、今日者御二度・御三度共御弁当之事

小座敷會議
從二位様御丸薬差上候事○御末家様御揃御出殿、於御小座敷
御會議有之候事○夜七字三十分御入被遊○前大津方赤身
三貫目差出二付、老^貫め御裏廻し致、残り赤身ハ御末家様を始
大参事江御酒頂戴被仰付候二付、是亦頂戴被仰付候事

正月十三日曇

豊栄神社参詣
御表様御朝拝済、八字三十分御出門、一応御屋形へ御出、御直垂
被為召、御末家様方御一同豊栄神社江御参詣被遊、又々御屋
形へ御帰り、六字御帰殿、御入之事

(15頁上部欄外書入)

午正月十三日
御両殿様及御側

一米貳俵 万年寺

右元就公以前之

御仏様方御掛位

牌御施餓鬼以來被

差止、毎年正月十四日

輕キ御供養被仰付

二付、前書之通可被成

御寺納哉

但、右御供養料有無之儀、追而何分之詮儀仕可奉伺候、
右御仏様御施餓鬼之節、米貳石充御寺納相成来候得共、
先般藩制被仰出、御手薄之御家祿御手詰之儀二付、是
迄御寺納被成候米半万余減少ニして、前書之通被相納
可然哉与詮儀仕奉伺候、以上
付紙として、本書御供養二付御両殿様御名代家扶江
可被仰付哉、但、御用湊入等之節ハ不被仰付哉

諸隊へ御意

從二位様昨日之通御丸菓差上候事○四字殿様御書院御出座、

御末家様方御揃二而諸隊之者被召出、御意被仰聞候事○六字

御座間會議

御而殿様御支藩様御揃、於御座之間御會議有之候事

○夜七字三十分御入被遊候事

正月十四日晴

御表様朝御拝済、十字過議事官御出、第五字御帰殿○今日より

御休菓之事

從二位様昨日之通御丸菓差上候事○御箸一膳御廻し致候事

○御二度御用被聞召、四字御入之事

正月十五日夜雪

御表様朝御拝済、十一字御出門二而御屋形江御出、二字御屋形

(大久保利通 黒田清隆)

大久保利通
黒田清隆

より客館江御出、薩藩大久保一藏・黒田良輔兩人被召出、

夕方於御前御饗応有之、相済、夜中八字比御帰殿、御三
度召上り二而御入之事○御定之御夕飯後物差上候、夜中

御裏御上り、下夕頂戴被仰付候事

身祝

從二位様御丸菓召上候事○御二度前御身祝差上候事○御夕

砂糖

飯後物并御砂糖御廻し仕候事

正月十六日晴

御表様御朝御膳済御帰、御拝済、十字過議事館御出、三字

御帰殿被遊候事○竹田庸伯出伺、御裏二而御伺申上候事○横

竹田庸伯

山幾太・内藤唯輔萩江御使として被差越、高井彦三根役方

横山幾太

内藤唯輔

高井彦三郎

三田尻三番大隊補助長官被差出候事

從二位様御丸菓差上候事○御二度後御用被聞召、五字御入被遊

候事

正月十七日雪

御表様御朝昨日之通御帰之上、御拝相済、第十一字議事館

御出、夕四字御帰殿被遊

從二位様御丸菓差上候事○御二度後御用被聞召、三字御入

(徳山毛利元蕃)

毛利元蕃

被遊、其後淡路守様御出被成候二付、御帰り御相对済、御入

被遊候事

正月十八日朝晴夕曇

御表様昨朝之通御帰之上、御書御認被遊、第十二字方客館

(三条実美)

客館

森寺国之助

江御出、三条殿御内森寺国之助へ御相对有之、夫より議事館へ

御出、夕四字過御帰殿被遊候事○鯛三尾岩国様より御到来

鯛

二付御裏廻し致、老喉召上り二相成、余式喉ハ両家從始頂

戴被仰付候事

從二位様御丸菓差上候事○御用被聞召済、四字御入之事○御看

高杉小忠太

一折吉川様方御到来ニ付一尾御回し致、壹尾ハ高杉小忠太

白魚

江頂戴被仰付候事○白魚壹籠御召上りの料として差出ニ付

菓子

御廻し候事○御菓子御詰替御廻し致候事

(21)

正月十九日雪

御表様朝御拝済、御定刻議事館江御出、五字御帰殿被遊○

夜中御表江御帰、御書御認被遊候事

從二位様御丸菓差上候事○御二度御用被聞召、五字御入被遊候

事

正月廿日曇

御表様朝御拝、御定之通議事館江御出、五字過御帰殿、無間御入

毛利親信

(右田毛利)

被入候事○夜中十二字親信殿其政府方罷出候ニ付、御表江御帰

(22)

被遊御會議有之、二字比御入被遊候事○九市・浪江右兩人干城

(東条九市) (神代浪江)

隊江御用有之、夜半方萩表へ被差越候事

東条九市
神代浪江
干城隊

會議

從二位様御丸菓差上候事○御三末様御出被成御會議有之、引続き

御用被聞召、五字御入被遊候事○干城隊一中隊参着ニ付、御庭

干城隊

江被召出被仰聞有之候事

正月廿一日曇

御表様朝御拝済、十一字方議事官江御出、五字御帰殿、無間御入

脱退兵藩庁包

被遊候事○廿二日と二月廿一日迄之諸事御籠城中故不審

(23)

從二位様御丸菓昨日之通差上候事○御二度後御用被聞召、四字御入

被遊候事

正月廿二日

諸隊へ御意

從二位様昨日之通御丸菓之事○殿様御書院出御、諸隊之者

被召出御意被仰聞候事○御三末様御出被成、御小座敷ニ於て

大根・蕪菁
大津四郎左衛門

御會議有之候事○大根・かぶ、大津四郎左衛門取帰り之分差出御廻

(24)

正月廿三日

南東助
井上庸助
山県篤藏

從二位様御丸菓差上候事○御三末様御出之事、南東助・井上

(隊脱)

庸助・山県篤藏、干城江御使として萩江被差越候事

正月廿四日

毛利元純
佐々並出張
南東助

(25)

從二位様御丸菓差上候事○御末様御出被成、清末様佐々並へ

(毛利元純)

御出被成、南東助夜ニ入帰山致候事

正月廿五日

從二位様御丸菓差上候事

(26) 正月廿六日

從二位様御丸藥差上候事

正月廿七日

從二位様今朝御丸藥召上り、鎮瘻散召上二相成候事

(27) 正月廿八日

從二位様前日之如く御丸藥・鎮瘻散差上候事

正月廿九日

從二位様御丸藥朝昼両度二御散藥御靜前差上候事○鯨身

鯨身
通浦

(通) 三貫めかよい浦方為注進差出候二付、半分調進所江預置

候事

(28) 二月朔日

老公御丸藥夜中御散藥被召候事○赤身少し御末家様御供中江頂戴之事

○御夕飯後もの御末家様へ被進、御取分御裏へ廻ハす○吉川様・徳

菓子

山様方御見舞として菓子一箱充被進候事

二月二日

老公丸散藥昨日之通

二月三日

白魚
北川清助

老公御藥前日二同シ○白魚一籠北川清助方差出候事

(29)

二月四日

徳山へ使者 老公御藥昨日之通○徳山へ御使者として南東助被差越候事
南東助

二月五日

諸隊へ御意 老公丸藥計差上候事○御両殿様御揃、於議事館諸隊被召出御意被仰

聞候事

二月六日

重炭酸曹達 老公御丸藥被為止、御散藥三包被召上候、尤今朝ハ重炭酸曹達壺包被召

上候○御小重壺組充徳山・岩国様江被為進、酒肴二種大参事・権大

(30)

参事・大監察江頂戴被仰付候事

二月七日

老公御散藥昨日之通○鶏一羽殿様被進、御小重一組御前様へ御見舞とし

鶏
海老尾
鯨身

て被為進○海老尾五百目・赤身五百目先大津方差出ス、赤身者

御廻し致、海老尾ハ御手置致候事

二月八日

老公御散藥昨日之通

二月九日

老公御散藥二包・鎮瘻散二包被召上候事

(31)

二月十日

茶
老公御散菓差上候事○御茶詰替廻し之事

二月十一日

鴨
老公御散菓差上候事○鴨壺番殿様方御両所様へ被差上候事○十二時比
藩庁解放
豊浦様御出、御四藩様其外諸兵隊参着ニ付於御庭御目見被仰付候事

二月十二日

老公御散菓被成御加減、二包差上候事

(32)

二月十三日

真章院
老公昨日之通御散菓被召上候候事○御小重一組、真章院様御気分相
西郷隆盛
ニ付、御見舞として御二所様方御内々被進候事○於御小座敷薩使西
シヤンパン
郷吉之助其外被召出御相对被遊候事○御下夕并シヤハン壺瓶木戸
木戸孝允
準一郎江頂戴被仰付候事

二月十四日

蕨
老公御散菓昨日之通○わらび・ゆつ一籠・柳之水、百姓差出御廻し
柚子
致候事○有地品之允・井上専齋東京より帰之事
有地品之丞
(33)
井上専齋

二月十五日

真章院死去
老公御散菓昨日之通○真章院様昨日御卒去御到来有之候ニ付、御内
実御忌被遊候付、御神仏様共御拝不被遊候事

二月十六日

洋糖
老公御散菓昨日之通○洋糖壺本御廻し致候事

二月十七日

温飩(うどん)
老公御散菓昨日之通○温(温飩)とん家從始近侍当番中江頂戴被仰付候事

(34)

二月十八日

蕎麦
老公御散菓昨日之通○そば二重御前様方御見舞として被進上候事
○今夕より御裏ニ御静寝被遊候事

二月十九日

酒
老公御散菓前日之通○夕方御四藩様御出被成、御両殿様御相对被遊、
引続き御末藩大参事始隊長迄被召出、御酒頂戴被仰付候事

二月廿日

老公御散菓前日之通

(35)

二月廿一日晴

五十鈴御殿
知事様午後第五時始而五十鈴御殿御帰り被遊

蕎麦

老公御散菓昨日之通○そば御膝中御紛れニと御裏江御廻し致候事○
御小重壺組殿様方御見舞として被進候付、御裏へ廻ハス

二月廿二日曇

知事様御定法議事官江御出被遊、第五時御帰殿被遊候事

菓子箱
茶詰替
老公今日より御休葉被遊候事○御菓子壺箱徳山様方御到来ニ付御廻し之事○御茶詰替御廻し之事

二月廿三日雨

知事様御定法午後五時御帰殿

老公御殿無事

二月廿四日曇

知事様朝御拜、御定刻議事官江御出、午後第五時御帰殿○豊浦様方御着一折被進ニ付、表家従・裏家従江頂戴被仰付候事

菓子箱
第五大隊
老公御菓子壺箱徳山様方御見舞として到来ニ付、御廻し致候○御二度後、御殿様大書院出座、第五大隊運動技芸御覽被遊候事

二月廿五日晴

知事様御拜、御定刻議事館江御出、四時頃御帰殿○此日豊浦様方御断、徳山様御裏江御出被成、御取着一種御表方御廻し相成候

菓子箱
（御見舞）
老公御菓子一箱豊浦様方御見廻として到来ニ付御裏江御廻し之事○殿様御出被遊、午後三時過御帰り被遊候事○真章院様御悔御帳被仰付候事

二月廿六日雨

佐賀藩進物 知事様御定法午後第四時御帰殿○佐賀藩方御進物、香炉一箱・香炉
煎茶碗
粕漬海茸
勅使三田尻
着艦
竹田省吾
林半七
より参り候事○林半七帰着之事

菓子箱
筍
井上六郎右衛門
老公御菓子壺箱清末様御持参被進上ニ付御廻し之事○竹の子井上六郎右衛門献上候事

二月廿七日

知事様今朝御拜、午前十時議事官江御出、午後第五時御帰殿被遊候事

福原三五郎
交着
老公今日方御忌明被為在候得共、御服中ニ付御仏拝計被遊候事○岩国様少々御不快ニ付、御見廻として福原三五郎被差遣、御交着一台

（朱書）
内々被進候事○肥前様方御到来之海茸半分丈ケ御廻し、残りハ御台所江預置○勅使御出ニ付、御奏者として三田尻 李輔被差越候事

二月廿八日晴

干城隊秋村
欽一即有福
半右衛門
（雨）
知事様御定法、午後五時過御帰殿○夜中干城隊役付秋村欽一郎・有福半右衛門出殿、御用被仰聞候、其他平常
老公御殿無事

二月廿九日晴

宣撫使

知事様午前第六時議事館御出、宣撫使御下向今日着鴻二付、柎村迄

德大寺実則

御迎として御出被遊、(德大寺実則)德大寺殿御旅館福幸院門前二而御迎被遊御

客館

相對被為在、直様御先客館江御出、勅使御着之上御相對、一応御
挨拶相済、勅書御拝受被遊候而無間御帰殿被遊候事、当日者

御朝・御二度共御弁当被召上候事

(40頁冒頭欄外書)

昭武隊
第五大隊
第二大隊

三田尻方柎村迄昭武隊御守衛御供致、柎村方第五大隊一中隊御警衛御供、
三田尻御滞留中ハ第三大隊第三小隊ニテ御旅館御警衛之事

閨兵

老公今朝大書院出御、浪華方帰兵之調練御覽被遊候事○勅使

海茸

德大寺殿御着二付、午前十一時御供揃二而客館江御出被遊、御式
台迄御出迎被遊候事○肥前様方御到来海茸預り置之分、御裏江
御廻し致候事

(41)

二月晦日雨

知事様早朝御拝、第七時三十分議事館江御出、夫方宣撫使本宮客館

江御出被遊、午後四時御帰殿被遊候事○御二度御弁当於客館被召

上候事

真章院葬式

老公真章院様御葬式二付、御二度まで御精進之事

旧藩札高調査

諸藩ニ於テ旧幕府ヨリ許可ヲ受從前製造之楮幣、以来其数を増益致候儀
嚴禁被仰付候間、是迄製造惣高取調、当月中御届出可仕段、先般御沙汰

之旨奉畏、取調之儀山口表申遣候處、未調書不差越二付、三月晦日迄御猶予被
成下度此段奉願候、以上二月晦日宍道直記、大藏省御役所永安和惣江相渡ス

(42)

三月朔日晴

知事様今朝御拝、九時議事堂江御出、第四時過御帰殿、其外平定也

茶詰

老公御屋形江殿様御出被遊○御茶詰御裏江廻し致候○例之通御

夕飯後物御廻し致候事

同月二日雨

知事様御拝、第七時三十分議事館へ御出、午後客館へ御出、勅使方

御一列へ御饗応事有之、夜九時頃御帰殿被遊

勅使饗応

一味噌漬鮎・砒(牡蠣)、萩明倫館学校小参事天野順太郎内献致す

味噌漬鮎
牡蠣
天野順太郎
鯨身
干菓子

一鯨壹貫目と三貫目大津部署より差出し

(43)

一千菓子一箱、德大寺殿ヨリ被為進之事

老公午後三字御供揃ニテ客館江御出、同八字御帰殿被遊

三月三日雨

宣撫使帰還

知事様午前五時一点御出門ニテ客館江御出被遊、宣撫使御帰被成二付

(一)(二)行間書入あり

一応御相對相済て御先ニ小郡迄御越、御茶屋二而御暇乞等被仰進
万端御都合克被為済、午後第四時御帰殿被遊○朝御式度とも御弁

当之事○定例之通御夕飯後物御裏廻し之事○御三度之時砵被食上(牡蠣)
鮎ハ御手置申付候○家從始近侍中・侍医江御酒肴御台司ニ而被下
候○徳大寺様方御到来之菓子御裏へ廻し候

（行間書入）

第一大隊
大村墓墓參
第五大隊

山口方小郡通り三田尻迄ハ第一大隊・二隊御供被仰付、故大村殿御墓參ニ者（益次郎）
第五大隊一中隊御警衛之事、錦小路殿御墓參之時ハ昭武隊一中隊警衛之事

味噌漬小鮎
生牡蠣
天野順太郎

④
老公午前六時御出門ニて客館江御出、勅使御発駕ニ付、御玄関迄御
送り被遊○御散葉朝夕兩度被召上○味噌漬小鮎・生かき一桶天野
順太郎内献ニ付、御裏へ廻し候○御定法之御夕半後物亦御廻し致
候○御菓子詰替御廻し致候事

三月四日雨

対馬藩使者
塩鶴

知事様御定法御拜、議事館江御出、午後四時御帰殿○対州嚴原藩知
事使者ヲ以、一塩鶴一羽被進候事

老公殿中無事

（44頁上部欄外書入）

太政官達

第十一号東城第十一 三月二日
悪金引替之儀ニ付、早々引替済相成候様
府藩眞ニ於而可取計之件、御達
三月四日 太政官

第一大隊嚮導等戦功賞(45)

三月五日雨

○議事館ニ書記・權書記ノ内一人宛宿直ヲ置ク
○第一大隊嚮導其外拔群ノ者へ戦功賞ヲ行フ
知事様御定刻午前十時議事館江御出被遊、午後四時御帰殿

対馬藩進物
塩鰯・椎茸

久留米藩進物
塩鰯
交肴
慈芳院

老公今日者御葉御休ミ被遊○塩鰯三尾・椎茸壹箱対州様方御到来
ニ付、塩鰯ハ政事堂ニ達大監察進献署江壹尾充頂戴被仰付候○
塩鰯一羽久留米様方御到来ニ付、椎茸・塩鰯共近侍中江頂戴被仰付
候○御交肴一折、対州慈芳院様方御目録を以被進ニ付、現品ニ致し
差出候様、御頼越之儀御台所江申授之事

三月六日曇

吉田右一郎
宮城直藏
毛利親信

吉田右一郎・宮城直藏書続き苦勞ニ付、於御座之間御直ニ
御給・御野相拝領○毛利親信干城隊長官申付東京差登候有命
知事様朝御定法、午後四時三十分頃議事館方御帰殿

（45頁上部欄外書入）

民部省達・
太政官達

牛馬売買渡世之者、往々
不埒之者云云付、通商司鑑札
下渡之件
三月五日 民部省

十御門、夜五ツ時ノ切後、無
印鑑通行不相成云々之件
三月五日 太政官

（46）

三好四郎兵衛
杉孫七郎
山口病院
二階千之
二階良選
高橋玄寿

老公殿中ニおゐて此度三好四郎兵衛其外御用有之浪華江被差越候
候ニ付、覺書杉孫七郎まで差廻し置候○今日より御散葉一包差上
候事
玄東嫡孫二階千之、山口病院診察方方除シ、二階良選同断頭取被差除、
玄甫嫡子高橋玄寿診察方被差除

(46頁冒頭部分書入)

佐藤弥兵衛
小周防村百
姓中

○佐藤弥兵衛、数年職務堅固且一昨年豊前四日市ニ於テ賊徒召取り、尚此度脱隊ノ者始末彼是令苦勞ニ付、御拾一拝領被仰候事○熊毛郡小周防村百姓中心得宜段い細管事ヲ申立之趣有之、別紙之通御書下を御酒共被下候事

三月七日晴寒

東条九市

知事様御定法之通午後四時頃議事館ヲ御帰殿○昨日近侍東條九市

干城隊諸取締として東京江被差登との御沙汰有之、今日者近侍竹

竹田省吾

田省吾仏式修行として土族第一大隊差加へられ一同東京へ被差登

古屋新作
砲術修行

御沙汰有之候事 ○鹿兒島藩へ古屋新作其外砲術修業として被差越、政事堂

(四代藩主利元巻)

依頼書綴込ニアリ○熊本藩へ答書綴込ニアリ

豪徳院百五
拾廻忌

徳山豪徳院殿百五拾廻忌御法事来ル十日ヲ執行申来る

拾廻忌

老公御丸葉昨日之通○御小重二組殿様御前様方今日ハ真章院

様初而之御法会ニ付御見廻として被進、依而御裏へ御廻し之事

第四大隊賢典
尾崎半蔵

三月八日

○第四大隊之者賞典ヲ発ス

○宮市本陣より尾崎半蔵帰山、彼地方日々鎮静士民安堵ヲ報知ス

知事様御定例之通相済

浜田県

第一大隊

○浜田出張之第一大隊志番中隊方、奥阿武郡屯營之三番中隊へ

器械・弾薬用意候而早々操上せ申来候由、道路之説ニ者浜田屯

在之脱卒江同県方取揚置候佩刀・器械を貸候様子ニ付、事実探索之為脱卒受取催促

旁吉田半輔ニ出張を命ス○浜田県方一揆巨魁もの御藩内へ入込候様子ニ付、召捕

方懸合ニ付答書ヲ発ス、綴込ニアリ、并布告今日、答十三日

萩町小松光蔵

○萩町小松光蔵年始御目見願出被聞届

○土族第一大隊提灯印向後黒主而十二主里付度御俵候

御茶
洋糖
新谷藩使者
進物

老公へ御散菓二包差上候○御茶積替御廻し、洋糖志本同断之事

新谷藩使者大参事徳田需・小参事河村田蔵、御進物蠟燭一箱・御肴一折・五百疋、

動揺御見廻、口上ハなし

三月九日

知事様御定法午後第六時御帰殿

常備軍閥兵
騷擾説略
藏版署
中村偕槌
郡司孫七
高崎勝馬
みめより
山崎半蔵

○書院ニ出座、庭上ニ常備軍被召出御意被成、且即日軍勞御慰撫として酒肴を賜る
○騷擾説略早々活刻之義、藏版署江及沙汰○中村偕槌萩砲兵塾讀書掛り、郡司孫七
同断生貞世話懸ニ○高崎勝馬の第二大隊駈引役を除シ第一大隊軍監被仰付○

老公御散菓前日之通○美目より志箱、山崎半蔵方差出ニ付御廻し之事

(47頁欄外上部書入)

山口病院
中村宗丘
赤川玄樸
田原鼎蔵
田原鼎蔵
竹田庸伯
中原玄快
中元玄快
弓田圭蔵
ボードイン

中村宗丘山口病院頭取ヲ除ス、
赤川玄樸同断、田原鼎蔵同御
用掛被差除○竹田庸伯・中原
玄快・弓田圭蔵、興丸様大阪
御越御供被仰付候付、滞坂中蘭医
ホウトエン江隨字被仰候事

太政官達

駅通規則別冊之通被仰

出ニ御達

三月九日 太政官

民部省達

諸門御見附守衛并市中取

締ニ付隊長・姓名・兵式等可届

出之件

三月九日 兵部省

脱隊騷動に
つき謹慎願

私共儀、去年十一月宣下ヲ以大参事・権大参事蒙仰候処、藩内兵制改革之事ヨリ
シテ意外之擾乱ヲ生し、終ニ宣撫使御下向被為在候次第ニ立至り、畢竟不顧浅劣、
猥ニ重任ヲ奉し、第一広大之勲旨ヲ貫徹スルノ力ナク、次ニ知事ヲ輔け、其職ヲ
尽せしム事能ハス、万端措置失宜より差起候儀と今更奉恐入、依之身柄謹慎罷在
候、此段宜御沙汰被成下候様奉願候 以上 三月九日

昭武隊
常備軍
第二丁卯丸

三月十日晴

○昭武隊水上真光院江転陣○常備軍一先分散○第二丁卯丸
浪華と帰京候ニ而捕縛之脱隊人を連れ帰る」井上宗右衛門
同船便ニ而帰藩

知事様朝御拝其外御定例、午後七時御帰殿

○帰順兵之内京阪生之者四人、大
坂目明友蔵其外帰便を以被差返

森藩使者

○豊後森藩使者秋山発平・竹田伴弓椎来着、秋山ハ上士・竹田ハ中士、変動并時候
見舞之件、口上書

金川鑑蔵

有徳院一周忌
香川京造

○有徳院殿一周忌御法事来十九日方執行御知せ、香川京造方申来ル、岩国也、右ニ
付メ

濱焼卵
楯取素彦

老公御散薬昨日之通○濱焼之卵、楯取素彦より差出御廻し之事

三月十一日雨

○当分今日より一ノ日休暇、一ケ月中三度ト被仰出、
然処賞典掛ハ多忙ニ付出勤ス

知事様御休日ニ付御式度前御入り之時御拝之事

湯田

老公御丸薬式包差上げ候、午前十時御出門為御步行湯田辺江御出被遊、

午後二時御帰殿、直様御入之事

三月十二日晴

○杉孫七郎・中村誠一・国貞廉平・野村素介免職○柏村数馬
ヲ権大参事・軍事学校少参事兼掌へ、六戸三郎ヲ権大参事へ、
山県弥八権大参事、

(48 頁欄外上部書入)

毛利大参事、毛利大参事、杉権大参事・中村――、国貞――、野村権大――、
木梨――、弁官御伝達所不及其儀候事

第十一東城第一 三月五日

諸御門諸見附守衛并市中取締等相勤致候兵員其外委細可申出段御沙汰之旨奉
畏候、然処於当藩守衛尚東京滞在之兵隊無御座候、此段御届申上候、以上、
三月十一日 兵部省御役所 宍道直紀

久保断三 會計小参事兼掌へ久保断三、同断
藤田与次右 知事様朝御定法ニ而午後六時御帰殿被遊、
衛門 へ藤田与次右衛門、吉田右市郎更
吉田右市郎 権少参事ニ御直被仰渡
益田丹下
浜田県 猪
○益田親様家来益田丹下浜田県を猪用懸合ニ付答書ヲ発ス
駅法御改正御布告ニ付藩々見込筋可申出之件 民部省

老公御散薬昨日之通、

三月十三日晴

○毛利元雄・宍戸親基免職、中士頭是迄之通り○宮城直藏・
佐藤弥兵衛更ニ権少参事試補所勤へ、山根秀輔・中山澄江一
同鳥取松江両藩へ被差越○大参事一先欠官之御沙汰被仰出

知事様御定法午後七時御帰殿也、

老公御丸薬二包差出之事、

三月十四日

○木梨信一 氣分相ニ付如願免職、笠原半九郎上ノ関部管事江
転ス

大梨信一
笠原半九郎
薩摩藩使者
野津平左衛門
町田七右衛門
白木綿縮
御見舞也
教頭野津平左衛門・侍直長町田七右衛門被下物白木綿縮ニ反
充也

知事様御定法午後三時客館江御出、薩藩使者御相对被遊同六時御帰殿

○松田茂助昭武隊之内百人、仏式为修業東京被差登ニ付其費ノ端江金百円ヲ献ス

(49 頁欄外上部書入)

当藩南貞助儀、去蔵箱
館表勤役中、同所近
傍七重村索国商人江
金銀貸渡之条約
取結之趣ニ相聞候ニ付
而ハ、右始末書取を以可
申出段先般御沙汰之旨
奉畏、別紙之通申出候、此段
御届申上候、以上、
三月十二日 宍道直紀
弁官御伝達所

(49 頁欄外上部書入)

大参事

右

朝廷御主意ニおゐて
不拘門閥人材登用可
致との事ニ候得共、其
人体難得ニ付、一先則
關ニ致置候事
三月十三日

触達

士族中物髪羅成者之儀
者、向後支配方届切ニ而
被差許候事
三月十四日

(49 頁欄外上部ノ左書入)

藩内隊卒沸騰一条ニ付、兼而為御守衛被召出置候藩兵一大隊暫時帰藩之儀、願
之通被聞食届候処、過日御届申上候様平定仕候付、右兵隊当節山口表発足東京
差登候間、到着之上者是迄之通御沙汰被成下度申上置候様申付越候、以上、
三月十四日 弁官御伝達所 宍道直紀

(49 頁欄外下部書入)

当藩南員助儀、
昨夏箱館出張中
索国公使荷物損失之趣ニ付
御尋之旨奉畏、別紙之通申出候
此段御届申上候、以上
三月十二日 宍道
外務
御役所

(50)

第二大隊

老公御丸菓昨日之通

○第二千城隊・昭武隊を以士族編製被仰付候ハ、隊名之儀
第二大隊と相唱候様被仰付候事

三月十五日陰

○河村与市郎・田門源七今朝出發東京行
○毛利元潔免職、渡辺伊兵衛・中村文衛門免職

河村与市郎
田門源七
毛利元潔
渡辺伊兵衛
中村文衛門
山尾庸三
第二丁卯丸
坪井航三

○山尾庸蔵帰藩已来苦勞ニ依り、金五拾兩被下候事繰込ニアリ
○第二丁卯丸船將坪井航三、右此度朝廷方第二丁卯丸北海道測量為御用差廻候様、御
沙汰相成候付、早々出帆被仰付、尤品川湊着之上、兵部江何出候様被仰付候事
○第二丁卯丸東京被差越ニ付、十八日出帆之事

知事様御定之通午後之五時御帰殿○御夕飯後物御廻し○夜御食上リ下た
於御台子当番之家從近侍へ頂戴之事

大村藩土萩
鑄造局見字
○大村藩若永公衛・伊手国松来着、萩鑄造局拜見願出ニ付、明十六日ヨリ被差越ニ付
小使一人附添差越候○元遊撃隊江木宗吉高森を歸り、同隊屯所龍福寺馬場屯所江歸り
候処、いづれも居合無之ニ付夜半申出候間、管内屯所江差越候○徳嶋藩使渡辺清ハ、
副使足助衛人御書翰取持、別ニ御進物有之

老公御丸菓昨日之通○御夕飯後物御吸物御肴ニ種例之通御廻し之事

三月十六日晴 休日○今日ヨリ平常之通り一六之日休暇被仰付候

知事様御二度前御入懸ケ御拝之事

毛利元雄元家
来内海鬼熊
吉田半輔
○三田尻部ヨリ、元毛利元雄家来内海鬼熊と申者潜伏ニ付捕縛し送り来る、脱兵たり
とも格別不審と申程之儀も無之故、館内屯処ニ送る○吉田半輔石州方用洛帰鴻

宮市
宮市辺商戸融通之ため、春秋兩度三十日限り市賑ヲ乞フ者アリ、打廻り孫右衛門方許
否問出るニ付、其趣意を逐一可申出様授ケ置候

桜井慎平他
○桜井慎平上下七人外二大村松二郎・羽仁次郎太郎・飯田驥十郎・河野寛蔵・大嶋十
郎今日乗船之儀、慎平方届出る

御茶
老公御丸菓昨日之通○御茶積廻し候事

(50頁右欄外書入)

右御付紙到着之上、是迄之通被仰付候事○外国輸出蚕紙製作凡員数并鑑札可申出之件、三月十四日民部省
府藩県是迄取立来候川々往来船筏之定税、取調届出之御沙汰、民部省 三月○

(50頁上部欄外書入)

(50頁上部)左欄外書入

蚕紙渡世之旨、近来漫リニ相成候趣ニ付、蚕紙製作凡員数并鑑札願請御名前とも取調可申出段、先般御沙汰之旨奉畏、取調之儀山口表申遣候処、未何分之儀不申越候、然処御期限も有之儀遷延相成候段奉恐入候得共、尚又至急取調候様可申遣ニ付、暫御猶予被成下度此段奉願候、以上
三月十五日 宍道
通商司御役所

(50頁上部欄外書入)

当藩石高其外此度御達之趣ニ付、別紙之通御届申上候 以上
三月十五日 宍道直記
土木司御役所

一高三拾六万九千四百一十一石 山口藩
外二新田打出
高六十一万八千五百九十三石余
合高九拾八万八千四百石余
内
高九万八千八百四十石余 藩知事
高式拾七万四千三百三拾八石余
但、支藩江配地新田打出共
高六拾万四千八百六十五石六斗
藩支配所上屋敷大手前
中屋敷深川万年橋
○過ル十三日之御沙汰ニ依リ差出ス

(51)

三月十七日晴

○山根秀輔、鳥取・松江江今日方出発

○第二丁卯丸船将杉留之助、右此朝廷方第二丁卯丸北海道測量為御用差廻候様御沙汰相成候付、早々出帆被仰付候、品川湊着之上兵部省江伺出候様被仰付候事

知事様御定之通、午後四時過御帰殿○今日阿州之使者に御相对被遊

老公御歯痛ニ付御散薬ニ包差上候○御菓子詰替差廻し候

齒痛
菓子

德島藩使者

第一丁卯丸

山根秀輔

石部六郎

兵書講釈
練兵場

第五大隊

三月十八日晴午後雨

○書記座無人ニ付、筆生・助筆之中老人充廻ニして宿直被仰付、石神祿郎權少参事御直命

知事様朝御拜午前七時方明倫館御出、兵書講釈被聞召、引続き練兵場

二御出、第五大隊之調練生兵技芸御覽被遊、午十二時前直ニ御屋形

へ御出、午後四時御帰殿之事

老公御散薬加減相成ニ包差上候

(51頁上部欄外書入)

太政官達

集議院開院被仰出、諸藩議員来ル四月中可罷出事
三月十七日 太政官

同断ニ付、藩政向色々心得候者撰筆之儀、口達

同断ニ付、近隣御帰リ之者云々之件、同断
三月二十七日

(52)

三月十九日雨

○内庫署之内庫中之銃器・彈藥を取除方之義、会計局へ授ケス
○第五大隊東京被差返今日十時比出発ス

知事様御氣分相ニ而議事館江ハ柏村数馬を遣し御用御聞取被成候○

御二度前御入御二度御廻し之事

昭武隊

熊本藩入学の件
薩摩藩・熊本藩士入鴻の件

鯛粕漬

○下主支配所方、此度東京被差登昭武隊中ニ而嗣子無之者、旅役中仮養子之儀聞出之処、辰年登京之通飯養申出ニ不及との御沙汰候事

○熊本藩江浅香淳一郎・村上重次郎入学之儀差話断状を發候

○北川清助より薩摩芳国宗吉・今藤助左衛門、肥後藩野田半助・草野豹蔵、筑前藩安川放市郎・小西洗太郎同道ニ而来看、山口表江出学校御規則御尋仕、尚現場拝見仕帰候様被申付候、就も罷出候付入鴻之儀如何之差図問出候、添書等持来之者ハ入込被仰付、其余御断ニ相成候

老公昨日之通御散薬ニ包被召上○鯛粕漬片身宛権大参事三人・大監察

鯛粕漬
パン

兩人江頂戴被仰付候事○家從淺野往来ハ当御付に、河北一御表へ転役被仰候事○鯛粕漬頂戴之時御初を配り桶とも御廻し、并ニパン過日之御注文不残差廻し候事

豊津藩使者

三月廿日

○大参事欠官中、其職務を権大参事ニ取計ヲ命ス
○豊津藩使者入江淡上下六人、中市岡本方へ来宿

対馬藩使者

知事様御定法御出厅、御屋形ニ而对州御使者御相對五時過御帰殿之事

○当節御頭痛被為在御治薬之事

老公御散薬昨日之通

小川良馬
公務署
林謹治

三月廿一日晴

徳山小川良馬、公務署管事被申付着鴻二付、林謹治交代帰藩之事

知事様御休日ニ朝御膳御廻し、御式度前御表へ御帰り直様御入之事、

(元徳長男・元昭)

興丸様駕

其節御拝被成候○興丸様明日方御発駕大阪共江為御養生御出被成

東条九市

候二付、夜中其供中其外士族第一大隊付として東京被差登候東条九

市等へ於御台司御酒頂戴被仰付候事 ○御頭痛御治薬昨日之通

高知藩使者

三田尻管事方高知藩使者小参事乾作七・権少参事森脇惟次郎来着、入鴻之儀申来る

老公御散薬昨日之通

毛利親信

三月廿二日晴

○権大参事毛利親信現勤被差除、士族第一大隊長官被仰付、東京被差登直命之事
○毛利左門第五大隊役付被仰付置候処、可被免旨候事

毛利左衛

知事様御定法午後五時御帰殿○興丸様朝七時御出門ニ而三田尻江御出

被成、明日御乗船之事○右二付為御祝御夕飯後物御廻し、夜中於御

台子御召上り下御近侍中頂戴被仰付候

宇和島藩使者

三月廿三日

○宇和島藩使者司令笠原隆平・学校
郎へ到着 佐教 遠藤久雄、中市町山田留一

老公御散薬昨日之通○真章院様御四拾九日御法事二付終日御精進被遊○午後二時方近江屋江御出、同五時御帰殿也

○三田尻部管事方諸藩使者之内山口入込之儀、兼而差免被置候部も先般混雑ニ付而ハ時々申出御差図を請取謀来候処、往返彼是手数相懸り候事二付、最前之通被仰付候而ハいかゞ御座候哉、御伺申出候間、何分之儀被仰授可被下候事、三月「本書、最前御沙汰之通入込被差免候事」

交有

知事様午前十時前平井堤辺御乗廻し、十一時御屋形江御出被遊、今度東京被差被差登士族第一大隊長官毛利親信其外一統へ御訓示有之、午後四時

(56)

御帰殿、御入り之節御拝之事○御服薬昨日之通○御交有ニ尾徳山様

方御使者を以先日御滞山中之御礼として被進候○右御召上り残り壱尾

河北一江御付被仰始而ト頂戴之事○興丸様今十時御乗船被成候段三田尻部

署方届出る

(54 頁上部欄外書入)

当藩兵制、是迄英蘭両

国之式相用候処、此度士族

一大隊仏式修行為仕度東

京差登せ候間、此段御届申

上候様、山口表方申付越候、以上

三月廿三日 六道

弁官御伝達所

兵部御役所

干城隊・昭武隊目力ヲ以差上
サレ

交着
御堀外郎屋
二時御供揃二而御堀外郎屋御出被遊、同五時御帰殿直様御入之事
外郎
○外郎三包御裏へ御土産とシテ御取帰り被相成御廻し之事

(55頁上部欄外書入)

先般脱隊卒二相加リ
令挙動、其後窃尔
自宅罷帰り居候者も
有之哉二相聞不束之
事二候、早々支配々々江
可届出候、万一此餘も
不心得ニて等閑ニ打過
候ニおゐてハ訖度御咎
被仰付候事
右之通触沙汰被仰
付候事
三月廿三日

漂着朝鮮人
鳳翔丸
杉民治
梶原治人

三月廿四日

○漂着之朝鮮人、鳳翔丸へ乗組長崎へ被差送
○二月朔日、民事権少参事杉民治・梶原治人、去冬已来之百姓
一揆等ニ付身柄差控申出候处、御役難被差替、是迄之通所勤被
仰付候事

(午前の誤り)

水上
知事様御定法相済、午後九時方水上辺御乗廻し、直ニ御屋形へ御出、

午後四時三十分御帰リ之事○御服薬昨日之通、興丸様御十五歳迄御

内輪たりとも式立候御勤合被差止

(56頁)

此日興丸様大坂御邸ニ御着被成、四月注進申来ル

干城隊賞典 老公御散薬昨日之通○御両殿様御座之間御出座、干城隊御賞典

士族第一大隊
岡藩使者

三月廿五日 雨

○士族第一大隊東京行之面々今朝六ツ時半頃出足
○豊後岡藩士両人、先般御国内変動之御見舞として来着、於小郡

知事様御拝御定法午後四時御帰殿○御散薬并御丸薬被召上

(ママ)

老公御散薬昨之通差上候○午後三時三十分御入○御茶詰替廻し之事

三月廿六日 晴 休日

知事様朝御拝済、午前十時過御入、御二度廻し之事○御茶召上られ

宣撫使

(56頁上部欄外書入)

此度宣撫使御下向相成
候、就而ハ追而從二位参
府之上朝廷江御礼可
申候得共、不取敢爰元
居合之重役を以御礼
申候而ハ如何可有御座
哉、此段御問出仕候て何分
之御差図を受候様山口
表方申付越候、以上

公用人

三月廿五日

安道直記

弁官

御伝達所

御付札

不及其儀候事

佐竹官少丞方被渡

負傷兵路料願の件

(56)
(56・2頁の掛紙)

覚

第四大隊

銳武隊

巳四月廿五日帰藩 西村音三郎 同六月晦日帰藩 福永三男

整武隊

同八月二日帰藩 井関乙次郎・井上三郎・岩武節藏・和田小太郎・坂根駒平・

同 荻原仙太郎・松原彦内・河野一兵衛・樋口数馬

同 藤田喜久馬・仲豊太郎・加藤国彦・松垣友之進・高橋教藏・藤野九郎・武田益之助

同 湯原正作・徳永栄藏・同八月十二日帰藩 木原二郎・同八月廿六日帰藩 俊成儀兵衛

同 良城隊 第一大隊

同 同十月十三日帰藩 久岡忠吉

右当藩兵隊去々辰年以来、奥羽蝦夷地等二而銃疵之者御当地大病院入込被仰付置候処、

平癒前書之通追々帰藩仕候処、其節路料御願落二相成深奉恐入候得共、格別之御詮議

を以、当節更ニ被立下候様此段奉願候、以上、三月廿五日 兵部御役所 宍道直記

同廿七日、金八拾五両壹分貳朱、錢百廿四文之江被差下候事

拾八両貳分壹朱、錢三百七十貳文、但貳人分同断

山口藩公用人

山口藩公用人

山口藩公用人

山口藩公用人

山口藩公用人

山口藩公用人

山口藩公用人

山口藩公用人

山口藩公用人

山口藩公用人

山口藩公用人

山口藩公用人

山口藩公用人

山口藩公用人

山口藩公用人

山口藩公用人

山口藩公用人

山口藩公用人

山口藩公用人

山口藩公用人

山口藩公用人

山口藩公用人

山口藩公用人

山口藩公用人

山口藩公用人

山口藩公用人

山口藩公用人

山口藩公用人

山口藩公用人

山口藩公用人

山口藩公用人

山口藩公用人

白魚 老公御散薬前日之通○白魚干備前様方御到来之分御廻し○過日差出

三瓶山蕎麦粉 之石州三瓶山之そば粉御裏へ廻す

(57 頁上部欄外へ左欄外書入)

三月廿七日

御直筆を以被仰出候

規則

一諸役員毎日第十時出

勤第三時退出

但、一役一名充輪

次当直例刻一時

前諸伺心接等

專任すへし

一大参事議事所

出席從第十時到十

二時、少権事一名同断

但、至急會議之節

ハ不拘此例

一各局奉伺録前日

取調可差出、尤至急

之事件ハ不在此例

付、休日ハ諸事翌

日ニ繰延取計べし

最至急之事件者格別たるへし

右条令確守すへきもの也

三月廿八日晴

知事様御定之通午後四時御帰殿○御薬昨日之通

山口学校聖 山口学校聖廟当春秋奠ヲ今日略祭被仰付

老公今日より御休薬之事

朱印・朱紋

常備軍・第

四大隊殿間

提灯朱印之儀ハ不相成、朱紋之儀ハ不苦御達 三月廿七日 弁官○

三月廿七日曇

○杉孫七郎権大参事於御前御直命

知事様前日之通午後四時御帰殿○御薬召上る○近侍兼常左一を以今日

御食物御箸下を常備軍并第四大隊等之怪我人江被下御慰問被成候

提灯朱印之儀ハ不相成、朱紋之儀ハ不苦御達 三月廿七日 弁官○

鹿児島藩士
中原喜十郎

三月廿九日晴

鹿児島藩士中原喜十郎昨日当地着 今廿九日帰藩候段、
町部署より届出

知事様朝御拜、九字より議事館江御出、夕第四字御帰殿○御散菓召上

り、御菓召上り候事

藩印

○此度於京都御渡相成候藩印仕用方御指揮之件、藩印者判任・任解・士族襲秩・
加録・賞典・死流以上罪案等之類重事件ニ可被用事御取消ニ而改る(藩印、入判
任・任解・士族襲秩・加録・賞典等ニ可相用事)

山口・萩学校

○山口・萩両学校少参事・権少参事、士族大隊編製御用掛り被仰付候事

神代浪江
南東助

○京都ニ付おゐて京都府内不審之者取締方、留守官より達
○神代浪江、根より第一大隊軍監被仰付置候処被差除、南東助、根役より第一大隊軍
監被仰付置候処被差除

高須勝馬

○高須勝馬第三大隊軍監被仰付置候処被差除、根役番動被仰付候事

老公御殿中無事

軍資金

軍資金是迄両京江相納候付而へ、右上納仕訳書取調去ル二月中可差出段先般御沙
汰之趣ニ付、取調之儀山口表申遣候得共、御期限迄取調兼候付而へ、当月晦日迄
御猶予御願申出置候、然処今以差越不申ニ付尚又申遣候間、来ル四月廿九日迄御
猶予被成下度此段奉願候、以上 三月廿九日 大蔵省御役所 公用人宏道直記

宣教師

(58頁右側欄外書入)

宣教師被為設候ニ付、可然人材 一兩人
撰筆
早々神儀官江可申出之件 太政官 三月廿八日○

藩札

(58頁上部欄外書入)

覚

一藩札拾三万貫目
此金貳百三万二千二百五拾兩
但、当今平均通用相場
兩利六拾四匁替之金ニ
して

右今般御沙汰之旨を以
藩内融通之緒幣取調
候処、享保年以來旧幕
府申出之上製造之惣高

前書之通御座候、此段御届
仕候様山口表より申付越候、以上

三月廿九日 宏道
大蔵省御役所

札数之覚

一拾匁札 一五匁札
一四匁札 一三匁札
一貳匁札 一壹匁札
一五分札 一四分札
一三分札 一貳分札
右之通御座候、以上

昭武隊

三月晦日晴

昭武隊より育英塾取設ニ付百人扶持充御下渡願之件

(39)

知事様昨日之通り御薬・御菓子召上り候事、今日より變急御治薬朝夜両度

第三城隊

充召上り候事

第二城隊、右隊より御預り被成、士第一大隊と相唱候様被仰付候
事○昭武隊、士族第一・第二大隊江合併編製被仰付候事

今日より變急御治薬

宮野 老公御二度後御供揃二而宮野辺御出被遊候事

豊榮神社

仏祭停止

先般洞春公者豊榮神社宣下被為在候二付、向後神祭一途二被仰付、御
仏祭之義ハ被差止候事

○此度御詮義之趣有之、洞春公以上之御正統御遠祖様方、向後御仏祭被差止、御
神祭一途二被仰付候事、右之通触沙汰被仰付候事、午三月晦日

大野鑑四郎 大野鑑四郎御内々願申上候件

去秋不作已来窮民御取救之義御配慮被為在誠二以難有奉恐入候、右奉恐察現米五
石奉差上度、聊之儀二者御座候得共、何卒御取救之端江被為召加被下置候ハ、難
有仕合奉存候、此段可然御取成可被下候様伏而奉希候、以上 三月廿七日
増野又十郎殿 大野鑑四郎

前書之通御願申出候間、此段宜敷被成御沙汰可被下候、以上 同日

藤与次右衛門殿

石部 増野又十郎

吉田

○本書容易二難被差許筋二候得共、志神妙之事二付格別之御詮義を以申出之通被
差許候条、奥阿武郡部署江可差出事

(59 頁上部欄外書入)

昨年十月太政官江届出候版籍
調書之内、石高其外御入用二付
当月下流ヲ限り可届出段
御達之義奉畏候、然処於
爰元取調兼候廉不少二付
取調之義山口表申遣置今
暫御猶予被成下度此段
奉願候、以上
三月晦日 山口藩 宍道
兵部御役所

(59 頁上部欄外書入)

從來支配地総高其外御
沙汰之趣を以取調、去十月
中御届仕候処、右取調筋
半途之廉有之候二付、猶
亦御差図之趣を以僉議
仕候央、藩内混雜不容易
事体二立到リ彼是取調
及遷延候段奉恐入候得共、
今暫御猶予被成下度此
段御願申出候様山口表方
申付越候、以上
四月二日 宍道
弁官御中

(60)

四月朔日晴

知事様朝御拜、午前十時方御乗切二而清水寺江御出、御二度被召上、

清水寺 二時方川土手通り御堀江御步行、福田屋二而少御休み被遊、御乗切
福田屋 二而四時御帰殿、御夕飯後御廻し之事

仁保水車場 老公午前十時御供揃二而仁保水車場江御出被遊御弁当被召上、御帰リ

長野八幡 長野八幡二而御小休ミ、午後五時過御帰殿○御肴三種・御吸物・
赤飯 御正誕生式

御赤飯、今日御正誕生式二付御廻し致候事

四月二日雨

知事様御定法午後五時御帰殿、無間御入、御三度後夜八時御表へ御帰

(61)

吉田御廟 里御静寝之事○明日方芸州吉田御廟江御代参被差立候付、今

夜方明日中殿中服改之事

村松藩使者

村松藩使者狩野与一・児嶋達、中市岡本善七方ニ来着

今夜ヨリ明日中議事館・五十鈴御殿并御前罷出面々服改之事

小幡彦七
吉田代参
佐々木源蔵

老公、明三日小幡彦七吉田御代参被差立候間、今夕より於御表御斎

戒之事 近侍佐々木源蔵東京ヨリ御用物取帰ル、昨夜ナリ

四月三日

知事様朝御拝午前九時議事堂御出、祭祀少参事小幡彦七芸州

吉田御廟江御代参被差立候二付、御直垂被為召、御両殿様御書院

江御出座、祝詞御手付御渡被遊相濟、御召替被成、御定法之通り

御用被聞召、午後二時御帰殿無間御入之事○小笠原男也御小納

内藤唯輔
兼常左一

戸役、内藤唯輔御判紙役、兼常左一御櫛役被仰付

老公、小幡彦七御目見之件のミ故ニ略ス

四月四日雨昼方晴

知事様御定法通り午後二時三十分御帰殿、無間御入之事

上関不穩
平生

帰順兵上関部平尾辺江嘯聚不穩之拳動ニ付御手当トシテ出兵等、管事笠原半九郎
より急檄午後六時着

老公御殿中無事、三時御入之事

四月五日晴

知事様御定法午後四時三十分御帰殿、無間御入、御夕飯後御菓子廻之
事

広沢綿藩
小郡・三田尻・
徳地動靜
飢肥藩使者

(広沢真邑)
広沢参議綿藩○小郡・三田尻・徳地兇徒再挙ノ模様ノ報至ル、居合ノ諸兵ヲ配
置、萩ノ大隊ヲ召ス○諸部管事ニ出郡ヲ被仰付○飢肥藩使者田原文哉、

同附小史田代宗七、三輪惣右衛門へ来着

上関戦争
浦嶋彦
浦真吾

老公上ノ関戦争相始め候由注進、午後上関賊退散候由注進、午後

三時御入被遊候事

上ノ関住居土族并大野式小隊浦島彦其外ニ小隊柳井町会
等ヲ以、兇徒ヲ掃攘スルノ注進トシ浦真吾七ツ時過至着

四月六日雨

知事様朝御拝午前十字議事堂御出、午後三字御帰殿、無間御入之事○

鯛二・鴨一徳山様方被為進候二付、鴨御三度之節被召上、鯛御手置候事

当分秋明倫館内ニ政事堂出役所ヲ被差建候事、権大参事・少参事ノ内一人書記・
筆生ノ内二人輪番十五日詰交代被仰付候事

筍

老公筍二籠過日京都江御注文之分、浪華方差送り、上之分七本御裏

へ廻し残りハ御台処江御預ケ置候事

四月七日天気

知事様御定法之通御帰殿、無間御入之事 殿様元徳公ト御改名被仰出候事

〔元年度〕
徳地派兵

徳地屯集之兇徒討伐トシテ第一大隊曉六ツ時過鴻城出足、仁保村通りニ差出シ、元昭武
隊第四大隊三田尻口援兵トシテ差出シ○仁保伊開田村方壹里程奥ニテ国司健之助善提寺
江賊徒三十人程屯シ頻リニ焚出シ致候由ニテ同村住宅之家来ヨリ援兵ヲ乞出ル
久保権大参事石部權少参事宿直ス

徳地戦争

老公徳地ニて戦争相始候注進有之○御代拜被仰上候事

觀宗寺 四月八日晴 德地觀宗寺ノ兇徒ヲ第四大隊其外諸兵ヲ以掃攘スノ報知至ル

知事様御定之通御帰殿後七時御入之事

德地鎮庄 老公十二時頃德地之兇賊退散之注進有之、午後三時并藏帰着申

上致候事

野村素介ヲ權大參事、柏村數馬次座ニ、林良輔ヲ家扶・家令欠官
柏村數馬 中職務取計ヲ直命アリ○使役山県金次山代ヨリ帰使、伏野捷戰之
林良輔 報知ハ少監察ノ報ニ譲ル
山県金次
伏野捷戰

四月九日

知事様朝御定ノ通御帰懸ケ大御裏江御出、午後七時御帰殿、無間御入
之事

洋糖

老公御菓子積替、洋糖老本御廻し之事

四月十日雨

知事様朝御拜、午前十一時議事官江御出御用済、午後六時三十分御帰
殿之事

右田兵一 右田兵一昨八日帰陣報知ス○豊後臼杵藩使者来ル○杵築藩淺野直主・小林重吉
臼杵藩使者 三輪惣右衛門方へ来着

會議 本戸・広沢 老公夕方御會議御聴被遊後、本戸・広沢始權大參事・大監察被召出、

御吸物・御肴三種ニ而御酒頂戴被仰付候事

四月十一日晴 休日

知事様朝御拜、御式度前御入○御菓子御廻し○御菓被召上候事

老公殿中無事

四月十二日晴

知事様朝御拜等御定之通、午後四時御帰殿、其より本戸・広沢御裏
江被召出、御酒頂戴被仰付、御肴三種・御吸物等外ビール二本御廻
し之事 長井小介を以怪我人御訪ハセ相成、御食物御辨かち下さる

シヤンパン 老公殿中静閑、広沢方サンハン酒六本・海苔老箱献上、調進処江

野村素介 御預ケニ相成る事○野村素東京当年ノ命を奉ス 注

四月十三日天氣

十日・十一日

本戸親基 本戸親基以下六人江御直書ヲ以諸兵駆引ヲ命ス○御中間權次郎以下七名ヲ
準士ニ、御煎方作右衛門ノ勤功ニ依扶持一人口ヲ下ス○十四ノ分
○子供遊ニ付触達布令控ニ 十四日ノ分

宮城直藏 知事様御定之通十時三十分御出庁、四字御帰殿

佐藤良助 宮城直藏筆並諸局權少參事次席被仰付候事○佐藤良助五等官筆頭被仰付候事
第二丁卯丸浪華江被差廻、広沢參議乗組廿三日揚碇

御堀 老公午後三時御出門、御堀江御出被遊、六字御帰殿之事

四月十四日晴

知事様御定之通○御菓召上り候事

老公殿中無事○吉川様方マス魚式スホ御到来、御裏廻シ之事

四月十五日晴又雨

台道 知事様朝御拜、御定尅御出庁、午後三時方御乗切ニ而小郡方台道へ
上田正藏 御出、御旅館上田正藏へ御泊、小笠原男也・大中秀伯御供之事
小笠原男也 大殿様来月上旬東京へ御登駕○殿様来ル廿一日鹿兒島へ御越御致定之事、杉孫七郎
大中秀伯 殿様御供被仰付
杉孫七郎

煎染
切寿し

老公御前様御裏へ御出二付御酒御吸物御肴五種御廻し之事○煎染

(68)

二台・切寿し二台・菓子二台、御前様御供之女中江頂戴被仰付差廻し候事○御前様方御酒御肴代五百疋、家従を始当番中江頂戴被仰付候事

四月十六日晴 休日

台道
三田尻
興丸
貞永隼人

帰山

知事様台道御発馬、朝七時三田尻問屋口津の国方二而御小休ミ、夫より御船二而興丸様御旅館貞永隼人方江御出、御式度被召上、三字貞永御発シ、鯖山御小休ミ、御菓子被召上、夕七時御帰殿
興丸様午前九時御着艦、貞永へ御一泊之事

(黒川村田屋島カ)

(朝田村)

老公午前十時御供揃ニて鯛之島江御出、河普請御覧、徳証寺にて御

(69)

弁当被召上、御帰途鮎取鮎引御覧、午後六時頃御帰殿之事

○鮎十九鮎寺内暢三方差出二付御裏廻し之事

寺内暢二
鯛之島
川普請
徳証寺
鮎取鮎引

四月十七日晴

興丸帰山

知事様御定之通○御丸薬被召候事○興丸様午十二時頃御機嫌能

御帰山被遊候事

有吉新太郎
野原八郎右衛門
永富小三郎
岩国邸監
境省太郎
祐蔵院法事

老公殿中無事

四月十八日

本戸・広沢
ジャンパン
糠漬蕪
カステラ
木瓜・独活

知事様御定之通○午後五時本戸・広沢被召出、殿様二ハ御菓子被食上、両人二ハ御菓子・サンパン頂戴之事○興丸様方御土産として糠漬蕪・

(70)

(とうきびカ *左写真参照)

かすていら・木瓜・独活・登君一包被進、御手置之事○神戸

神戸本陣
専崎弥五平
西洋菓子

専崎弥五平より献上之西洋菓子、広沢・本戸へ頂戴被仰付候、残りハ御手置之事○御薬被召候事○御前様今朝方豊浦へ御越被成候事、

注

朝四ツ時前御出門、三田尻まで御越、其方御舟之事、明十九日興丸様豊浦へ御越之事

小乙君一包

老公、神戸御本陣専崎弥五平方御酒老挺・御菓子一箱両殿様へ

御催合二而献上二付、御酒者御廻し、御菓子ハ殿様へ御取分被為成

候事

四月十九日晴

広沢邸

知事様御定之通午後四時方広沢殿へ御下り被遊、夜八時御帰殿

今日方当分御休薬之事

(71)

老公御無事

宍戸親基
藩庁唱え

四月廿日晴

宍戸親基免職申付○議事館ヲ更ニ藩庁ト唱へ被仰付

知事様御定之通午後五時御帰殿○徳山様方御交肴一折被進二付入

御覧○

老公御殿中無事

四月廿一日晴

元徳鹿島行
知事様朝御拝、午前七時御出門、御乗切ニ而終村御小休、鯖山御休ミ、

第十二時三田尻御茶屋江御着、御二度・御三度・夕方御酒被召上、
午後第十時御茶屋御出門、乙丑丸御乗組、翌午前第三時龍ヶ口御

海苔

拔錨

老公、徳山御奥様へ海苔老箱 広沢献為御見舞被進候事○御

茶詰替御廻し之事

四月廿二日晴

赤間関着
越荷方会所
知事様午前八字艦中ニ而御膳召上り、十時馬関御着艦、直様会所

越荷
方 江御揚陸、御式度召上り、夕方当所管事方御酒差出候ニ付
被召上、木戸・杉・菅事大中作右衛門其外当番中へ頂戴、夕三時

御歩行七時御帰、御三度召上り午後十時御帰艦○御菓子一箱

豊浦様方御見舞として被進、艦中ニ御手置申付候事○此夜雨

天ニ付御碇泊

お園様唱

老公お園殿御仕成被仰付、向後様唱被仰付候事○御夕飯後物

御肴五種・御吸物・御酒致御廻候事

豊浦招魂場

四月廿三日曇

知事様御朝艦中ニ而被召上、午前十時天気曇ニ付御上陸、豊浦招

魂場江御歩行、十二時頃会所江御帰り、御式度・御三度共被召上、

今夜御一泊

木戸邸
養蚕局

老公御式度後木戸様へ御下り被為在、御帰懸ケ養蚕局江御出被
遊、午後六時三十分御帰殿被遊候事○御夕飯後物御酒・御吸物・

御肴

式種御小納戸方差出御廻し之事○お園様方当番中江御酒

肴被下候事

赤間関発
呼子着

四月廿四日晴

知事様御前八字三十分馬関港拔錨、午後第六字比肥前呼子港

江御着艦、此夜御一泊 馬関方当港迄海上四十八里

喜撰糖
竹田紹旦
正行寺八十八夜摘茶
飯田宗治

老公、御茶老箱・喜撰糖老箱竹田紹旦献上○正行寺八十八夜摘御茶、
飯田宗治方差出候事、以上三品御廻し候事

四月廿五日

呼子発
長崎着
島原町上野弥
兵衛邸

知事様午前六時呼子港御拔錨、第四字三十分長崎港御着艦、即時御揚

陸、島原町上野弥兵衛方御着、第五時御歩行、七時三十分御帰館、

御酒御膳被召上、御一泊

老公殿中無事

稲佐村製鉄場
写真

四月廿六日晴

知事様此日御滞留、午前九時方稲佐村製鉄場江御出、御帰り之上

御三度被召上○写真江御出被遊候事

湯田
吉富藤兵衛
老公午前十一時御出門ニ而湯田辺御出被遊、吉富藤兵衛ニ而御弁当

被召上、御帰リ懸ケ広沢兵助方江御小休、午後四時御帰殿

(76)

四月廿七日雨午後晴

知事様御三度共御旅館ニ而召上リ、午後三時頃方外国商館其外

外国商館
グラバー邸

ガラバ別荘江御出、六時御帰館御一泊

老公御殿無事

四月廿八日晴

写真師

知事様御三度御旅館ニ而被召上、写真師御旅館へ来る、夜十時御乗

艦

老公御菓子詰替、御廻し之事

(77)

四月廿九日

長崎発
天草沖

知事様午前八時崎陽御抜錨、午十二時過天草沖ニ而艦中損

器械直ニ仕懸る

老公殿中無事

(78)

(三月廿九日・晦日条抹消頁)

宮野

老公御二度後御供揃ニ而宮野辺被遊御出候事

(79)

五月朔日晴

知事様薩州嶋崎江御着艦、式字串木野江御揚陸、小船ニ而海

嶋崎着
串木野
市来

上二里串木野御登門、一來村江六字三十分御着御一泊、
串木野市
木迄壹里余

鯛・玉子
亀ノ玉

○鯛一尾・玉子百八十、右ハ串木野村常備兵方献上、当番中頂戴、
(マメ)
一亀ノ玉五十・交肴一折・酒二樽、市来役中より献上二付、交肴酒

一樽御旅館御門立番兵隊中江頂戴、一樽家從其外江頂戴、

糸元金兵衛

亀ノ玉ハ御手置、鶏卵五十宛木戸・杉江頂戴、市木糸元金

兵衛方御一泊

吉敷龍藏寺

老公十字御供揃ニ而吉敷龍藏寺江御出被遊、四字御帰殿○例之通御

夏橙

(81)

夕飯後物御肴三種・御吸物御廻し致候事○夏橙淇太郎差

出候付、御裏廻候事

五月二日晴

市来発
長里村久保里

知事様市木本陣御出門但御馬被爲召、長里村久保里栄蔵方

伊集院

御小休、御着十字三十分なり、十一字御出門、十二字三十分伊集

横井

院御着、十二字三十分御式度召上り一字御出門、三字四十分横井

水上

御小休但、市木より長里へ壹里半、長里より伊集院村江一里、伊集院方

鹿兒島着

○水上御休ミ第三字なり、第六字御出門、七字鹿兒島御本陣江着、横井
方鹿兒島江式里、伊集院近処迄御召馬御次馬御迎として被差越

候事

夏橙
井上兵衛
西洋菓子
青木蓮平

(82) 從二位様夏橙井上兵衛より差出候間御廻之事○西洋菓子二瓶青木蓮平方より取帰り二付御廻し之事○午前九時御供揃ニ而明倫官江御出被遊、十一時御帰殿之事

五月三日晴

鹿兒島藩知事來訪
台場
招魂場

(島津忠義) 知事様午前十時過鹿兒島藩知事様御旅館江御出、御菓子・御茶被差出候事、午後三字方御步行台場・招魂場へ御出被遊候事、第六時御帰館

西洋菓子

從二位様西洋菓子一瓶御廻し之事、午後三時御入被成、御散菓二

(83) 包差上候事

五月四日晴又雨

集成館
磯の茶屋
島津図書
島津素彦

知事様午後第一字御船ニ而集成館江御出、御覽相濟、磯の御茶屋江御覽有之、夜八字御帰り被遊、島津図書・島津素彦御取持之事

五月五日風雨

(マ、午後)

知事様午前第三字方御城江御出、七時三十分御帰○鶏卵艦將植木其外

江頂戴

(84)

從二位様昨日之通御散菓差上候事○御夕飯後物御吸物・御取肴御廻し之事

鹿兒島発

五月六日晴 知事様鹿兒島御旅館御出門ニ而御乗艦被遊、無間御拔錨

從二位様御殿中無事

六連島

五月九日

知事様御艦中無事、夜十字過六ツ連島沖ニ繫艦

從二位様御散菓二包差上候事

五月十日

赤間関着

(85) 知事様五字三十分拔錨、朝八字馬関御着、会所江御揚陸御

長府着
豊浦本陣長
井屋蔵

(清末藩知事毛利元純) 二度被召上、長府江御一泊、御旅館へ清末様御出、豊浦御本陣ハ長井屋吉蔵也

從二位様殿中無事

五月十一日風雨

清末行き

知事様朝第九字清末様江御出、第五字豊浦様御同道ニ而御帰り被遊、

赤間関帰館

(長府藩知事毛利元敏) 御旅官ニ而御暇乞被成、第六字御出門、御乗切ニ而馬関江第第七字

過御着、御一泊

(86)

從二位様御殿無事

五月十二日晴

赤間関
三田尻着

知事様第七字馬関御立御乗艦、同字三十分御出帆、一字三十分三田

尻御着艦、二字御揚陸、御茶屋御小休御弁当、第三字三十分御出門、

第八字御機嫌克五十鈴殿御着被遊

帰山

乙熊
新四郎

從二位様殿中無事、乙熊出山、新四郎御使者俊命之事

(倭命)

五月十三日晴

知事様朝御拝、十時御屋形御出、夕三字御帰殿○御夕飯後物御廻し之事

(87)

從二位様御殿中無事

五月十四日雨

竹田紹直

知事様十字御出、夕三字御帰殿○御煎茶一壺・御菓子一箱竹田紹

旦方献上三付入御覧、御裏御廻し之事

從二位様殿中無事

五月十五日晴

木戸

知事様御定之通午後四字御帰殿○御夕飯後物御廻し○木戸参議近々

東京へ被帰候二付、御裏江被召出、御酒頂戴被仰付、御夕飯後外二

御肴三種・ビール四徳御廻し○鯛三尾清末様方御見舞とし被進付

鯛
ビール

(88)

御近侍中頂戴之事

薩摩土産
ビール
杉重
カステラ

從二位様へ殿様方薩州方之御土産としてビール・御杉重・カステラ
壺箱被為進候事○大殿様大御奥様江御催合二而○

五月十六日晴

(位殿)

知事様御定法、午後四字御帰殿○從二様近日東京御登被遊

候二付、今十六日十七日両日とも御用多二付御休日不被遊候事○御

前様興丸様江カステラ壺箱充御土産として被進候事

カステラ

從二位様洋糖壺瓶御廻し之事、其外殿中無事○御散菓二包

(89)

被召上候事

洋糖

五月十七日晴

知事様御定法之通午後五時御帰殿

從二位様御散菓昨日之通

五月十八日

木戸

知事様御定之通午後三字方木戸参議方江御出被遊、七時御帰殿之

事○鯛一折徳山様方御見舞として被進二付、木戸へ御土産と

して頂戴被仰付之事○毛利元詮家督被仰付二付十時於御書

院御太刀目録献上被仰付、御三献御式有之事○大殿様・大御前様

太刀目録

(90)

當年御有掛入二付御祝被成、ふの字の品七通り被進候事○御肴一折

有掛入
ふの字の品

河北一
張盈
小沢伊織
大御裏より被進二付、河北一・張盈・小沢伊織江一尾充頂戴被仰付之事

從二位様御散葉昨日之通○御取肴二種御吸物今日御うけ入被遊候二付御祝被為御廻し之事

五月十九日晴又雨

家鴨
知事様御定之通○家鴨式羽木戸準一郎より内献二付、一羽御三度

石州大森御用
達熊谷三九郎
二被召上、残り一羽当番中へ頂戴○鯛一折石州大森御用達熊

谷三九郎より献上二付入御覽、興丸様御附近侍中江頂戴、残りハ

(91)

茶部屋中江同断

從二位様御散葉昨日之通○御肴一折徳山様方被為進候二付御廻し之事

五月二十日晴

知事様御定之通御菓子召上り之事

(目脱)

從二位様昨之通差上候事○御肴一折清末様方被為進候付御廻し

夏橙
井上兵衛
之事○夏橙七井上兵衛方内献二付御廻し○御精進御正忌日之外

御精進
被為止候二付、御内仏様御拝之節も御忌日之外ハ御菓子御煎茶御

燈明差上候義被差止候事

(92)

五月廿一日晴又雨

津和野藩知
事見舞
知事様九字御出、夕四字御帰殿、夕御菓子召上り○御肴一折津和野藩

渡辺太郎左衛
門
水仁
知事様方御見舞として被進候二付入御覽、渡辺太郎左衛門江頂戴、余ハ御台処水仁江頂戴

從二位様へ殿様方御発駕御歛として御肴一折被進候二付、御裏へ御廻し之事

五月廿二日晴

敬親見送り
角力上覽
知事様朝御拝、午前七時御出、午後十時御帰殿○大殿御発駕○午十二時御屋形御出、角力御覽、興丸様御一同御菓子被召上、家從を始御

供中御菓子頂戴、夕六字御帰殿

(93)

敬親山口発
從二位様午前第九時御屋形御発駕、柗・鯖山・宮市御休二而午後三時

三田尻発
三田尻問屋江貞永方御着、直様御乗艦、同夜十二時被遊御発

艦候事○楫取素彦より浜焼玉子・蓴菜・鮎壳籠献上

蓴菜・鮎
之事

五月廿三日雨

知事様御定法第九字議事館江御出、第四字御帰殿

備後富海
從二位様午前六字三十分備後富田海御着艦、御碇泊被遊候事

五月廿四日雨

(94)

井上庸一
カステラ
知事様第九字議事堂江御出、第四字御帰殿○井上庸一帰山、カステ
イラ一箱内献之事

淡路

従二位様午前四時三十分御発艦、淡路へ御碇泊被遊候事

五月廿五日晴

知事様第九字議事官江御出、第十二字御帰殿、御式度被召上、無間

朝鮮人參
江原淳一郎
侍医中原

御入被遊○朝鮮人參対州江原淳一郎方献上、侍医中原へ渡ス

兵庫本陣

従二位様四字御発艦、七字三十分兵庫御本陣高見江御着被遊候事

五月廿六日

(95)

乗馬
毛利元教

知事様第九字御出門二て御乗切備近辺御乗廻し、御弁当、第二字過
御帰殿○夕方毛利元教内御裏江被召出候二付、御夕飯後物御廻し之

事

興丸様明朝三田尻へ御越被遊候付、御供近侍中江御酒頂戴之事

神戸鉄屋
異人館

従二位様十一字御供揃神戸鉄屋方へ御出、夫より異人館へ御覧被

遊候事○御菓子一箱大御前様被進候事、肴一折・菓子三瓶鉄屋方内
献之事

五月廿七日曇

士族隊銃陣 知事様御拝、第八字明倫官江御出、士族隊銃陣御覧、第十字議事館

御出、第十二字御帰殿、御式度被召上○御散薬被召候事○興丸様
第七字御出門、三田尻へ御越二付御相對あり○

和田神社

従二位様御二度後御供揃二て和田社上宮司へ被遊御出、七字御帰被遊候

事

五月廿八日晴暑甚

南宰判士族 知事様第九字議事館江御出被遊、南才判士族其外当春延引之御目見
被仰付、御用済第二時御帰殿○夕方毛利元教内為御暇乞旁御裏江

兼重淳輔
鯉・蔵・蓬

被出候二付、御夕飯後物付御煎肴御廻し之事○明朝より兼重淳輔田代
江罷越二付、御二所様方鯉一箱・わら美・よむ一曲御催相二而被進

須磨

従二位様御二度後御供揃須磨還被遊御出、七字御帰被遊○御重一箱鉄屋
より内献之事

五月廿九日曇

(97)

知事様第九字議事館江御出、第十二字御帰殿御膳

兵庫発
外国艦乗船

従二位様十字御供揃兵庫本陣御発興、一字異艦御乗組、五字御出
帆之事

五月卅日曇

乗馬
御湯

知事様第六字明倫館江御出、御乗馬、御帰殿御湯、無間議事館御出、御弁当御用済方大御裏江為御暇乞御出、第四字御帰殿○夕方御裏元教内被出候二付御夕飯後物御廻し、御刺身一鉢計○石州浜田町人左之通鯛二尾・松寿二樽内献、鯛一尾ハ河北一、一尾ハ御小納役人江頂戴、樽老对御裏江御廻し之事

石州浜田町人内献

遠州洋

從二位様御艦中也、遠州洋風波無之

(98)
(空日頁)

六月朔日曇

(100)

元徳秋行

知事様第四字三十分山口五十鈴御殿御發駕、六軒茶屋・佐々並・明木等二而御小休、第十二字過御乗切備二而明倫官御殿へ御着之上、御二度被召上候事○此日如例御夕飯後物差上候て当番江も頂戴被仰付候事

横浜着
本陣高鴻屋

從二位様四字横浜御着御揚陸、同所御本陣高鴻屋御着之事

六月二日雨

蜚針

御出庁無之、夕方蜚針差上候事、御丸菓召上り、尤朝夕両度二分ち差

蕎麦

上候事○夕御菓子召上り、御三度前そは召上候事

横浜登
川崎・品川
東京着

從二位様七字御供揃横浜御登東、河崎・品川御小休、五字御屋形御着被遊候事

六月三日曇

補備隊稽古
上覧
乗馬
花の江茶屋

朝十字方知事様補備隊稽古御覧被遊、引継御馬被召、御二度後花の江御茶屋御出、御弁当被召上七字四十分御帰殿

青木研蔵

從二位様少々御腹痛被為在、今日より御散菓三包差上候事○鯛一尾青木研蔵江被下候事

(102)

六月四日雨

春日社・宮崎
社・満願寺・
光厳寺参詣

知事様第七字御出門二而春日社・宮崎社・満願寺・光厳寺御出被遊、第十一字御帰殿被遊候事、御風菓召上り、夕方御菓子被召上候事

永寿院

從二位様御散菓昨日之通差上候事○御菓子一重永寿院より御内献候事

六月五日雨天

萩土族等御目
見

知事様第十時御書院出御、萩居合之士族中御目見被仰付候事、御丸菓召上り候事

(103)

有栖川熾仁
前原彦太郎

從二位様御散菓昨日之通三包差出候事○大交有有栖川様より御到来二而、直様前原彦太郎江被下候事

六月六日曇

北郡士族等御
目見
禎之丞

知事様第十字御書院御出座、北郡士族其外御目見被仰付候事○禎之丞様夕方御出御相对被遊候而、御帰後御小重衣組被進候事○夕方御菓子召上り御丸菓召上る○今朝御拝被遊○昨日赤川玄礫御滞留中御番入被仰付候事

赤川玄礫

六月七日曇

瑞応寺・巨真
寺参詣
シヤンバン

知事様第七字御出門二而瑞応寺・巨真寺御出被遊、第十一字御帰殿○
御丸菓被召上り○御菓子・サンハン召上り

包煙草
鍋島直正
重吉

從二位様五ツ半時御供揃御参内被遊、九ツ時過御帰館○御交肴一折・
包煙草五十鍋島大納言様より御到来、御肴ハ長吉様へ被為進候事○
今日ハ御休菓

六月八日曇

講釈聴聞
乗馬

知事様第七字講堂江御出、講釈御聴被遊一応御帰殿、無間諸生抜人数
ニ而講釈被仰付事○夕方御乗馬被遊○御菓子召上り、御三度後御酒
召上り○御丸

菓同断

正木市太郎
壬生

從二位様御交肴一折右土州様方御到来、正木市太郎江頂戴被仰付○御
菓子壹箱壬生様方御到来之分、御小重話ニして吉川様江被進、御残
り御式台詰、同役中江頂戴被仰付

六月九日晴

東光寺・准
門寺・光明
寺参詣
山根孝仲

知事様第七字御出門二而東光寺・准門寺・光明寺へ御参詣、御帰懸ケ
御乗切被遊、山根孝仲方へ御小休、御酒肴献上、第十二字御帰殿○
芳心院様へ御内々御肴被進候事○御前様方御内二御菓子被進、夕方
御菓召上り、御散菓被召上り候事

從二位様御屋形無事

六月十日晴

劍術・騎馬
隊稽古上覽

知事様第八字劍術稽古御覽○夕方騎馬隊御稽古、第四字方權大参事・
小参事・社寺主事・管事・市令・県令・小監察等へ御酒頂戴、第八
字相濟○夕方御菓子、夜中御酒・御菓召上り○禎之丞様方鯛壹折被
進、鰯廿・鯛二尾武田伊兵衛内献、シシヨ壹箱市令坪井宗右衛門
方内献、いづれも今夕御酒頂戴之節差出候事○夕方御乗馬被召候事

禎之丞
鰯・鯛

武田伊兵衛
坪井宗右衛門
參署

徳大寺実則

岩倉貞親
正親町三条実
愛

鍋島直正

六月十一日晴

浜崎御船藏
御堀御衆

知事様第五字御出門二而浜崎御船倉ニ於て御朝御膳被召上、直二御乗
船越ケ浜御出、御堀御衆被遊、夕七字御帰殿之事○朝夕両度御丸菓
召上り○御獵御肴四尾山口両御裏江被差送、其余彼地ニ而被召上、
或ハ頂戴被仰付○御交肴芳寿院様方御内々被進候事

桜餅

正親町三条
芳之助
青木研蔵

從二位様さくら餅四重正親町三条様方御到来、壹重芳之助様へ被為
進、跡壹重青木研蔵へ被下、残り御次手江頂戴被仰付事

六月十二日曇

西教練場
三兵合操調練
上覽

知事様第六字前御乗馬、第九字方行軍二而西教練場ニおいて三兵合
操調練被遊御覧、十二字御帰殿、夕方御菓子召上り御丸菓同断○口

ロウエン
塩漬豚
ウエン二瓶・塩漬豚神戸方到来二付、御台所二手置申付置候

向島
越ノ雪
前原彦太郎
從二位様八字三十分御供揃二而御下屋敷御出被遊、直様向島辺江御歩
行被遊、五字過御帰殿被遊候事○越ノ雪壹箱前原彦太郎内献、御帰
殿之上差上候事

(109)

六月十三日晴

騎兵稽古
六本水車場
川上目代村
三隅作藏
手製葛
五位鷺
祖式宗助
鯉
綿貫彦三
知事様第七字三十分方騎兵稽古被遊、引続き精撰人数玉打御覧被
遊○御二度後御乗切二而六本水車場へ御出、直ニ御乗船、川上
目代村ニ於て御獵被遊、三隅作藏方御小休、又御乗船、作藏内
献之手製葛被召上、御帰りの節天王寺岸方御上陸、御乗切二而
第七字御帰殿○五位鷺五羽、山県吉之助・祖式宗助方今日川上御
獵場二而内献、兎一羽、綿貫彦三方同前○御獵之鯉式尾、作藏老母
へ内々被下、外一尾彦三江同前○御獵鯉式尾・五位鷺二羽御手
置、生鯉四尾ハ作藏へ御預ケ置、其余ハ大監察・県令・家従・
近侍々医江頂戴被仰付○鯉一尾御酒騎兵塾へ内々被下候事○御
三度之節塩豚被召上○今夜方御休薬

(110)

岩倉貞親
木戸孝允
從二位様杉重御菓子岩倉様方御到来、木戸隼一郎江被下○二字御
供揃ニて被遊御出、四字頃被遊御帰殿候事

六月十四日曇

聖廟参拝
知事様聖廟江御参詣、御二度後五位鷺召上り、夕方御乗馬○御菓子被

召上、御三度後ロウエン召上り

内藤次郎右衛門
長沼総二郎
從二位様殿中無事、御交肴折内藤次郎右衛門・長沼総二郎始公用処
一達江頂戴被仰付候事

(111)

六月十五日陰

砲兵塾
蔵版局
南園養蚕
益田伊豆
根来上総
家鴨
天野順太郎
鯉
三隅作藏
知事様第九字砲兵塾ニ而講釈御聴聞、御二度後学校御蔵版局江御乗
切二而御出、其方南園御出養蚕御覧、引続き益田伊豆・根来上総其
外以前番長之者共御前被召出、於南園御夕飯後物頂戴被仰付、六字
三十分御帰殿被遊候事○家鴨二羽天野順太郎方献上、御三度之節被
召上、其余ハ御手置、鯉二十三隅作藏方内献二而、益田源兵衛・坪
井宗左衛門へ頂戴被仰付

從二位様十二字御出門ニて御参内被遊六字御帰館之事、主上御上り下
監察其外江被下候事

(112)

六月十六日曇

乗馬
小学舎
三隅作藏
天野順太郎
筒井真吾
知事様五字三十分御乗馬、第九字三十分講堂へ御出、小学舎小供取読
御聴聞、十二字過御帰殿被遊候事○三隅作藏へ御預ケ之鯉二尾差出、
一ハ天野順太郎へ、一ハ筒井真吾江同前○夕御腹瀉之氣味被為在、
御丸薬召上り○鯉壹尾御台所江頂戴為致候事

(113)

三桑実美

從二位様三字御出門ニ而壬生様江被遊御出、直様三條様江御出被遊、

夜十二字御帰殿被遊○御散菓二包差上置候事

六月十七日陰午後晴

萩苑

山口着

知事様萩明倫館御殿御発駕、大谷二而御朝御膳被召上、明木・佐々並・六軒御小休、第一字過鴻城御帰殿被遊、御入之上御二度被召上

○御夕飯後物御廻し致候○夜中於御台子当番江頂戴被仰付候事、

御寝前御丸菓被召上

從二位様御散菓不召上候事

六月十八日晴

蒲鉾・鮎

知事様第八字御屋形御出、御二度御弁当被召上、第二字御帰殿、是迄之御丸菓御止二而、健胃御丸菓両度充被差上候事○蒲鉾・鮎、萩より御取帰り二而両御裏江被進候事

東久世通禮

中山忠能

沢宣嘉

万里小路博房

伊達宗城

從二位様二字御出門、東久世・中山・沢・万里小路・伊達様江御出被遊、五字過御帰殿被遊○壬生様御出被成御逢之節、御菓子差出候事

六月十九日晴

騎兵稽古

知事様第四字明倫館御出、騎兵御稽古被遊、御弁当被召上、八字卅分御帰殿○御拝被為濟九字御屋形へ御出、二字二十分御帰殿、御丸菓両度被召上候事

從二位様殿中無事

(115)

六月廿日晴

騎兵稽古

補備隊銃陣上覽

知事様第四字明倫館二而騎兵御稽古被為遊、引続き山口・小郡住居

補備隊銃陣御覽被遊、御弁当被召上候而一応御帰殿、九字過御屋形

御出、明廿一日廿二日豊榮神社三百年御祭礼被為行、御仮社御手狭二

別火

付御屋形御出、直様御参籠被遊御三度方御別火二而被召上候事○今朝

御拝御済、夕方於御屋形明日之御祭式御習礼被遊候事○御服菓前日二

同し

從二位様御殿無事

(116)

六月廿一日晴又雨

豊榮神社祭礼

舞楽

葛せん

知事様九字御出門、豊榮神社御参詣御祭典被遊舞楽御覽、五字過御屋形へ御帰り被遊○御二度御弁当社内御休息所二おゐて被召上○御服菓両度被召上○葛せん・壺箱、山代極貧福五郎と申者実意を以度々

内献相願被差免、一昨日民政局方持せ差出候故入御覽、今夕御屋形

御帰り之上葛御菓子ニして被召上候事

伊藤俊助

氷

從二位様御殿、伊藤俊助氷壺箱差出候事

六月廿二日雨

(117)

豊榮神社祭礼

知事様第七字御出門二而豊榮神社御参詣御祭式被為行、御神饌・御神酒御頂戴相済、十二字前五十鈴御殿御帰被遊、御二度被召上候事○御祭事被為濟候御祝として御三度御一菜まし候事

從二位様御二度後之御出門ニ而木戸準一郎方江御出被遊、夜二入り御
帰殿被遊候事

六月廿三日晴

騎兵稽古

(館)

知事様第四字方明倫官ニ而騎兵御稽古被遊、一応御帰殿、十字御屋形
へ御出、一字御帰り之事○朝御拝被遊○夜中御下剂丸菓被召上候事
(118)
從二位様御散菓被召上候事

六月廿四日晴

着帯内祝

知事様朝御拜、九字御屋形御出、一字御帰り被遊○御前様御着帯内御
祝として、御夕飯後物五節句之例ニ而、御汲物・御肴二種、御膳
御一菜増被召上、夜中御下り御廻シ相成、当番中於御台司頂戴
被仰付候事○此度豊栄神社御祭礼ニ付、昨今両日於藩邸士卒族中江
御酒頂戴被仰付候事

從二位様昨日之通御散菓二包差上候事

(119)

六月廿五日晴

騎兵稽古

(館)

知事様第四字明倫官ニ而騎兵御稽古被相濟、十字御屋形御出、一時御
帰殿被遊○今朝御拝有之候事

從二位様御殿、御交肴一折薩州様方御到来ニ付、御式台詰へ被下候事

川蒸気
隅田川
栄寿院
高杉小忠太

○六時御供揃ニて川蒸気ニ被召、墨田川江御出被遊、夕方御帰殿○
御小重一組栄寿院より献上ニ付、高杉小忠太へ被下候事

六月廿六日晴

(120)

知事様第四字方柊村辺御乗廻シニ而御途中御弁当被召上、十字御帰り、
十二字前方杉孫七へ御乗切ニ而御出、御二度・御三度共彼方ニ而被召
上、夜九字御帰殿之事○於同処御菓子被召上候事○

乗馬
柊村
杉孫七

有栖川宮

本多丹下

從二位様二字御出門ニ而有栖川宮江御出被遊、八字御帰殿被遊候事、
(織仁親王)

御菓子一箱本多丹下方被差出候事

六月廿七日晴

(館)

騎兵稽古
会講聽聞

知事様第四字方明倫官ニ而騎兵御稽古、直ニ文学講堂江御出、会講被聞
召、九字前御屋形御出、一字過御帰殿○朝御弁当ハ於明倫官御式度者
(121)
於御屋形被召上○夕方御拝被遊候事

野村素介

從二位様御殿御菓子
(献呈)
本多献
野村素介江被下候事
通之分

六月廿八日晴

騎兵稽古

着帯祝

知事様第四字騎兵御稽古如前日、九字過方御屋形へ御出、二字前御帰殿
○今日於御屋形御書院、御前様御着帯御祝之御熨斗差上候事○御交肴
三尾、御着帯御祝として殿様方御前様へ被進候事○今日御祝として御
夕飯後物御汁・御肴二種、御膳一汁三菜被召上、御廻し致候事○御赤
飯二箱御前様方殿様へ被進○御夕飯後物御下り於御台司頂戴被仰付、
(122)

赤飯

御医者筒井
真吾

当番中御医者筒井真吾其外江も頂戴之事

從二位様御散葉二包差上候事○三字御出門二而土州様江御出被遊

八字御帰殿被遊候事

六月廿九日晴

涼雲院法会 知事様第四字方前日之如し、第九字御出庁、第一次御帰殿○今日涼

枇杷葉湯 雲院様御三廻忌御法会二付御朝御精進被召上○昨日方日々枇杷

葉湯被召上候事

從二位様御散葉被召上候事

七月朔日晴

知事様第四字方御乗切吉敷龍藏寺江御出、瀑布御覽被遊、朝御弁当被召上、十字御帰り○御夕飯後物御廻し、御菓子被召上候事○夜中於

御台司御夕飯後物御下り被仰付候事

淨光院 從二位様御散葉二包差上候事○御菓子一箱淨光院より内献上致候事

七月二日晴

知事様朝御拝御済、第八字方明倫官御出、土族第二大隊御守衛人数銃陣御覽、直二御屋形御出、一字過御帰り之事

從二位様御散葉昨日之通○權大参事其外被召出、御肴三種二御酒

頂戴被仰付候事

七月三日晴

知事様第四字過御乗切備二而宮野還御出、金古曾近江屋方二而御弁当召上り、直様御廻り道被遊七字頃御帰殿、御拝相済九字議事館へ

御出、第二字過御帰殿

干飯 從二位様昨日之通御散葉差上候事○干飯老箱清末様方御内々被

進候付入御覽、調進処御預り致置候事

七月四日晴

知事様第四字過明倫館江騎兵御稽古被遊、第八字過御帰殿、第九字議事館江御出、第二字頃御帰○御拝相済○焼酒老徳代壹百疋、八重様

江暑中為御見舞被進せ、御裏方も同様二付御催相二て被進候都合二いたし置候

從二位様殿中無事

七月五日晴

知事様第四字過明倫館江御出被遊、騎兵御稽古相済、第八字御帰殿、御

置致置候事○御小重一組・西瓜二ツ大御前様江御催相二て被進候、今日老女被召候二付持参之事

從二位様殿中無事

七月六日晴

三田尻行き
知事様第四字御出門ニ而三田尻江御越被遊、鯖山ニ而御朝飯被召上、

第八字三十分

(128)

黒鯛
赤えい

御茶屋江御着、第四字方問屋口辺御出、第六字過御帰館、御菓子召上り○黒鯛三、赤えい一右両御裏へ被進御送方いたし○黒鯛三管事楫取素彦へ被下、其外興丸様御付家從近侍其外江頂戴被仰付

從二位様御散薬二包差上候事○夕方少々御頭痛被為在、御泡剤二度差上候事

七月七日晴夕雨

乗馬
伊藤治兵衛
鮎・イナ
楫取素彦
岡儀右衛門
国貞廉平
鯉・スイカ

知事様五字御出門、土居辺御乗切ニ而伊藤治兵衛方御小休被遊、少々鮎・いな取共、楫取素彦・岡儀右衛門・国貞廉平・興丸様家從近侍江於御前御酒頂戴被仰付候事○鯉三尾部署内献、西瓜二ツ伊藤治兵衛方内献、

(129)

鯉一尾岡儀右衛門・国貞廉平頂戴、御菓子召上り

從二位様御散薬二包・御泡剤二度召上候事

七月八日晴

帰山

アサリ
シメヨリ

知事様第四字方御出門ニ而終御小休御弁当、第八字三十分五十鈴御殿御帰り被遊、第九字議事館江御出被遊、第一字御帰殿○興丸様方昨日アサリ二升内々被進御取帰り、両御裏江為御土産被進候○シメヨ

リ百入箱一箱充御両裏へ為御土産同断

(130)

從二位様御散薬・御泡剤二度召上り

島田直藏

七月九日晴

知事様第九字出庁、第一字三十分御帰殿○夕方御菓子召上り○島田直藏上々様方御伺被仰付二付、今日御出伺被仰付候事

從二位様前日之如し

七月十日曇

騎兵稽古
劍術上覧

知事様第四字明倫官江御出、騎兵御稽古相済劍術御覧、直様藩庁江

(131)

御出、第一字三十分御帰殿○御拝、夕方御菓子

從二位様御散薬今日より被為止、御泡剤昨日之通召上候事

七月十一日晴

騎兵稽古
水練稽古上覧
香川恒吉

知事様御拝、第四字明倫館江御騎馬前日之如し、一応御帰殿、長谷ノ原江御出、水練稽古御覧、直様香川恒吉方ニ而御弁当、第二字御帰殿、夕方御菓子

從二位様昨日之通御泡剤召上候事

(132)
七月十二日曇

騎兵稽古
乗馬
湯田
知事様御拝并御騎馬昨日之通、第七字三十分御出門ニ而湯田辺御乗切被遊、直様御出庁第二字頃御帰、夕方御菓子召上る

お園
從二位御屋形六字三十分お園様御着被為在候○御夕飯物差廻候事○

寿し
煎染
寿し・煎染式台宛、役座取計ニ而女中其外江頂戴として差廻し
(132頁欄外、右条文上部書入)

十二日無之
十三日之部

七月十三日雨

御内仏様
知事様第九字御出庁、第一字三十分御帰殿○御拝御内仏様江御菓子

(133)
御供へハ当年限りニ相成候事

從二位様御殿中無事、夕七ツ時御入之事

(133頁欄外、右条文上部書入)

十四日分

七月十四日曇

知事様御拝御菓子供へ候事、夕方御菓子召上り之事

七月十五日曇

知事様第八字大御裏江御出被遊、第九字過御帰殿、夕方御菓被召上候事○

(134)

夕御拝被成

從二位様御夕飯後物御肴ニ種御吸物御廻致候事○干鯛料百疋、お園様方被進御預り致置候事

(七)
五月十六日曇

乗馬
仁保津
知事様第四字方仁保津へ御出、御乗切林方ニ而御弁当被召上、第九字

前御帰殿被遊候事

仙台干飯
從二位様御夕飯後物御肴ニ種御吸物御廻し候事○仙台干飯御廻し之事

(135)

七月十七日曇

知事様第四字騎兵塾へ御出、御稽古被遊第九字御帰殿、無間御出庁、

騎兵稽古
豚
第二時御帰殿被遊、朝昼豚被召上、夕方御菓子被召上候事

從二位様御夕飯後物御肴ニ種御廻し、但御前様方御着帶御祝御肴被差

杉重
上候二付、杉重有栖川様方御到来ニ付致御廻候事

七月十八日曇

(ママ、聞聴カ)

騎兵稽古
兵学校聴講
知事様朝御騎馬前日之通、八字兵学校ニ於而会講被聞庁、九字三十分

(136)

御出庁、一字御帰館○夕御拝被遊○御式度御弁当之節豚差上候事

從二位様夕方御入湯之節少々御ふら付有之候処、其後御折合被遊候事

○御散菓二包差上候事

七月十九日晴

騎兵稽古

知事様御馬前日之如し、九字御出庁一字御帰り之事○朝御拝被遊○夕御菓子召上り候事

從二位様御散菓三包被召上候事

(137)

七月廿日晴

騎兵稽古

潮音寺

知事様御乘馬前日之如し、八字御出門二而潮音寺江御参詣被遊、御帰懸ケ藩庁御出被遊○朝御拝被遊、夕御菓子被召上候事

從二位様御散菓被召上候事

七月廿一日晴

乘馬
平井
胤鮎

知事様第六字御乗切二而平井河原江御出鮎御覽、朝御飯於同处被召上、十二字御帰殿、御胤鮎御式度二被召上候事、残り鮎御供又ハ御手伝之者ヘ

(138)

頂戴被仰付二付分配之事、御式度前御入之事、其節御拝之事

從二位様御散菓三包差上事、御菓子御廻し致事

七月廿二日晴

知事様第五時御乘馬前日二同シ、九字御出庁○朝御拝被遊○御二度ハ御弁当昨日之御胤鮎被召上、御三度家鴨薄切半炙きニして差上候事

從二位様御散菓昨日之通

騎兵稽古

(138 頁上部欄外書入)

廿二日

知事様第五字騎兵

御積、一応御帰り二而

九字藩庁御出、一字

御帰殿之事

一朝御拝被遊候事

一今日御式度御弁当

一御三度家鴨薄切

半煮ニして差上候

事

(139)

七月廿三日晴

(全殿)

騎兵稽古
文学聴聞

知事様御騎兵稽古前日之如し、八字方文学講釈被聞召、九字前御帰り、無間明倫館政事所ヘ御出、一字御帰殿○御拝之事○少々御不快二付御泡剤被召上○御二度御弁当ハ昨日之殘家鴨被召上候事

從二位様御散菓三包差上候事○豊栄神社御祭事二付、御夕飯後

物御廻し○御書院御出座、御東京居合士族中江御目見被仰候事

東京士族御
目見

七月廿四日晴

知事様朝御拝、九字藩庁ヘ御出十二字過御帰殿、無間御入り二而御式

度被

(140)

被召上候事

東京士族御
目見

從二位様御散菓二包差上候事、御書院御出座、東京居合卒族御目見被仰付候事

七月廿五日晴

騎兵稽古

知事様第五字明倫官ニ而騎兵稽古、一応御帰り九時過方御出庁、十

二字世分御帰殿○御拝、夕方御菓子被召上、御泡剤被召上、又夜

中御下剤差上候事

(月日上部書)

萩城西御殿
名目

御城代へ此度西御殿之名目被廢、御城一円之唱ニ被仰付
當繕被仰付候段、御沙汰ニ及候事、政事堂当直日記

(月日下部書)

此度御出生様之義者思召被為在、下方御同様御育ニ被仰付度との
御事ニ付御付之面々御趣意を奉し諸事取計候様被仰付候事、
但し、本文之通被仰付候付而ハ御規則其外破格之詮儀致候やう
ニ被仰付候段、内務局方書廻し有之段、大参事方申達

(14)

從二位様御散菓三包差上候事

七月廿六日晴

乗馬

小郡仁保津

林勇藏

秋本新藏

鮎漁

鯉

知事様第五字御乗切ニ而小郡江御出、仁保津林方ニ而御弁当被召上、
其方小郡川ニ而御獵被遊、御式度御弁当秋元方ニ而被召上、第三字

(秋本新藏)

御帰りの事○鮎二百尾御休林勇藏方、梨二十・酒老樽本陣秋本方方

内献之事○御獵之鯉と献上之鮎被交兩御裏へ被為進、御三丸様江も
同断、家従・御近侍・医者并騎兵塾方御供之面々へ御獵之魚頂戴分

配之事○御三度ニ鮎被召上候事

(142)

七月廿七日晴

騎兵稽古
杉孫七郎・
柏村数馬

知事様御定刻方騎御運動一応御帰り、無間御出庁一字御帰殿○御拝

○昨御獵之殘魚少々御手置申付、余ハ杉孫七郎・柏村数馬・御裏

家從江頂戴被仰付、御式度御弁当鮎被召、御三度ニ鮎被召上候○
昨日より御泡剤御休菓夕方御菓子召上り候事

從二位様御散菓昨日之通○御肴四種・御吸物不時御夕飯後御廻し致

候事

七月廿八日雨

(143)

騎兵稽古

早稲米

知事様御拝被遊事、騎兵御稽古同前一応御帰り、九字方御出庁、一字
御帰り○過ル廿四日頃当地部署より御早稲米差出、八朔ニ被召上筈
之事○夕方御菓子被召上候事

(143 頁欄外、右条文上部書)

廿九日分

從二位様御散菓三包召上候事○御菓子御詰替御廻し、ビール式瓶

ビール
平岡兵吉

平岡兵吉方致御内献候事

七月廿九日曇

騎兵稽古
步兵訓練上覧

知事様御拝、騎兵御運動前日ニ如し、引継き步兵訓練御覧、八時過御
帰り、無間藩庁御出一字三十分御帰り、夕御菓子被召上候事

(144)

枇杷・砂糖
海鼠・干蛇
昆布
八谷藤吾

從二位様枇杷・御砂糖五百目御廻し致○海鼠・干蛇・昆布相杜八

谷藤吾より内献候ニ付半方御廻し候事

(144 頁欄外、右条文上部書)

廿八日分

七月廿日雨

騎兵稽古

知事様朝御拝、騎兵御運動前日之如し、八字御帰り御出庁、一字三十分御帰殿、夕御菓子被召上候事

ビール

從二位様御散菓三包召上候事○御肴四種・御吸物御廻し事、ヒア二瓶御廻し之事

(146)

八月朔日朝雨夕晴

南郡の者御目見

知事様第九字御出門、大御裏江御出被遊、無間御殿江御出座、第十字在役中南郡同断、諸細工人・町人・百姓まで御目見被仰付、第十一字三十分相済御帰殿之上御二度召上り、夕方御裏二而御菓子同断○御拝前日之如し、今日御早稲飯召上り二付、式日之御夕飯後物江老種増二而召上り候事

從二位様御散菓二包差上候事○御夕飯後物御廻し致候事

八月二日晴

北郡の者御目見

知事様昨日之通北郡之者御目見被仰付、第一字御用済御帰殿御拝被遊候事

(147)

ビール

從二位様御散菓、昨日之通ビール老瓶御廻し之事

八月三日晴

知事様御拝、御出庁第一字御帰り、夕方御菓子被召上候事

隅田川

從二位様十字御出門二而隅田川御舟行被遊、六字御帰殿被遊候事、御散菓差上候事

八月四日晴

潮音寺

知事様朝御拝、八字方潮音寺江御参詣被遊、御帰り懸藩庁江御出被遊候事

(148)

從二位様今日より御休菓之事

八月五日晴

騎兵稽古

知事様第四字三十分御騎馬運動被遊、直様藩庁御出、第二字御帰殿從二位様御散菓三包差上候事

(149)

八月六日晴

乗馬
長野村

知事様第五字御出門、長野村御出、御弁当被召上、第十二字御帰殿、皆御乗切被遊候事、夕御拝之事

從二位様御休菓之事

八月七日晴

騎兵稽古

知事様四字御乗馬騎兵運動被遊、直様藩庁御出、第五字御帰殿夕方藩庁御殿二おゐて八家召出御酒頂戴被仰付候事、但権大参事同断

(150) 八月八日晴

隱居所普請所
湯浴み
鰻
柏村数馬
知事様第五字御出門二而、御隱居所御普請所辺江被遊御步行、御覧
候而御帰殿、直様御湯浴、第九字御出庁被遊候事○鰻十柏村数馬
方内献御手置申付候事○御拝○今晚方御三度後御一御肴被召上候
様被仰候事

從二位様殿中無事

八月九日晴

騎兵塾
鰻
知事様第五字方騎兵塾へ御出御帰懸ケ直様御出庁、第二字御帰殿被
遊○御拝○鰻家從・近侍・侍医へ頂戴被仰付○御夕飯後物御吸物・
御肴

(151) 三肴出納署方内献致御裏江廻し事

從二位様御二度後、御供揃二而巢鴨長四郎方江御出被遊候事

八月十日晴

乗馬
三田尻御茶屋
知事様御拝、御定刻御出庁、十二字御用済方三田尻へ御出被遊、御
乗切備二て鯖山御休、第四字過御着、御茶屋住居被為在候事、夜
中ロウエン被召上候事

從二位様御二度前より御物見江被遊御出、夕方御帰殿之事

(152) 八月十一日晴

開地吉祥橋 知事様第七字御出門二て今度開地吉祥橋辺御巡覽被遊、直様

大濱

御乗切備二て大濱へ、和泉屋正兵衛方御旅館近辺御步行、少々

いだ魚
鰻
ぼら

御猟事有之、第一字三田尻御茶屋江御帰り被遊、御菓子・梨夜中
ロウエン召上り、いだ魚岡義右衛門へ、鰻十一・ぼら二楯取素彦へ、
召上り下タ二重国貞廉平へ、御猟之魚請村手子・庄や・畔頭其外

心配いたし候ものへ為致頂戴候事○明朝御帰り御土産左之通、

ちん鯛
浜焼鯛

大御前様へちん鯛五・ぼら四ツ、御前様浜焼鯛二尾之事

広沢邸

從二位様御二度後之御供揃二而広沢兵助方へ御出被遊、夜九字

(153) 三十分御帰り被遊候事

八月十二日曇

帰山

知事様第五字三十分御出門二て鯖山二而御朝御弁当召上り、昼第九字

藩庁江御帰り懸御出、十二字御帰殿之上、御膳被召上候事

生見魂代料

從二位様へ生見魂御代料殿様・御前様方被為進候付、調進所江渡置

候事

八月十三日雨

明倫館小学校
(154)

知事様朝御拝、七字明倫官小学校御出御弁当被召上、午後二字御帰り

補備隊銃陣
上覧
乗馬
祝餅

懸練兵場二而補備隊銃陣御覧、夫より御乗廻二而御帰殿被遊候事○

御交肴一折徳山様方御内使者を以被為進二付御裏廻し○祝餅二重・

吉祥橋成就
渡初 鯛一折、防府三田尻新開地吉祥橋成就、三夫婦渡初二付、右之通

献上致候事○祝一重御裏廻し、鯛一折両家従へ頂戴之事

甲鉄艦 従二位様九字甲鉄艦江御出被遊候事

八月十四日曇

乗馬 知事様朝五字三十分御出門二而市中御乗廻し、(金土曜)近江屋御小休御弁当、
近江屋 夫より藩庁へ

(155)

御出、午後一字御帰殿被遊候事

従二位様殿中無事

八月十五日

氏神祭 知事様御常法午後二字御帰殿○今日御氏神祭二付、御夕飯後物

被食上候、調進候而御裏へ御廻し致候、其外例年之通御次頂戴被仰

付候○今日御庁江御出之節、大御裏へ御伺被遊候事

従二位様本多丹下より御内献として鱈差出候二付、布施保江頂戴

(156)

被仰付候、御夕飯後物御廻し致候○御散薬二包差上候事

八月十六日晴

竹田庸伯 知事様御二度御裏二而被召上、午後一字頃竹田庸伯宅江御成被為
大中愁伯 在、(大中愁伯)両家従、侍医秀伯・玄快、(中原玄快)筒井信吾被召出御歌会有之、夜十一
筒井信吾 歌会

菓子辛

字過御帰殿被遊、菓子辛庸伯方内献致いたし候○御有一種ロウエン
持参当次へ頂戴被仰付候事

従二位様御散薬昨日之通差上候事○御杉重岩倉様より御到来

致御廻候事

(157)

八月十七日晴

是迄上々様方・御末家様方江格式其外御勤相等之節、御目録紙
二檀紙・奉書類相用來候分向後被差止、御国製広折紙二被仰付
付候、此段達被仰付候事

騎兵稽古 知事様御定法之通御騎兵運動、直様御出庁、第一字三十分御帰殿

従二位様御散薬昨日之通

八月十八日晴

補備隊稽古 知事様朝御拝、八字方明倫官江御出、補備隊入込稽古御覧被遊、直様藩
上覧 庁江、第二字御帰殿

(158)

八月十九日晴

騎兵稽古 知事様御定之通御騎運動相済、内庫へ御出御覧被遊候事
内庫

従二位様御殿、今日者御圍被遊御帰不被為在候事○御散薬召上り候事

八月廿日

知事様御定法御拝、御常刻藩庁御出、午後第二字御帰殿

従二位様御散薬召上り

(159)

八月廿一日朝晴夕曇旦雨

乗馬 小郡 林勇藏邸 榎野川漁 秋本新藏邸 兼常亘人 鯰・イサキ・チン 野村屯
知事様五字御出門、御乗切小郡江御出、朝御弁当、仁保津林勇藏方江
御小休被遊候而彼方ニおいて被召上候、ふしの川御漁被遊、昼御休
秋元方ニ而御弁当被召上、夕三字御帰殿、兼常亘人御供、御漁鮒・
鯰亘人江被下○興丸様三田尻を御帰り被成、鯰式十、イサキ・チン
交り少々三田尻より御持帰り、御都合ニ而野村屯を差送り申付、御
三度ニ被召上候事

從二位様御散葉差上候事○御機嫌相遂日御快く被為在候事

(160)

八月廿二日晴

知事様御拝相濟九字御出庁、第二字御帰殿

從二位様御機嫌相今日ハ少々御快被為在候事○御散葉昨日之通

八月廿三日晴

乗馬 土族大隊上覧 三田尻兵・吉敷兵等調練上覧
知事様今朝御乗馬被遊、御守衛士族大隊調練、猶又三田尻兵・
吉敷兵等調練御覧被遊、第二字御帰殿○御夕飯後被召上、興丸様
御附家從始近侍々医等被召出於御前御酒頂戴、檜崎家從・河

河上休與 上休與出席同断

(161)

從二位様御機嫌相次第第二御快為在候事○御散葉召上り候事

八月廿四日晴

宝庫 林万樹多 林英次郎 佐田秋輔
知事様宝庫江御出、直様出庁、第三字御帰殿○林万樹多家從奉命、林
英次郎・佐田秋輔近侍奉命 卒族老人 右此度内庫署御道具取調被仰付候、就
而ハ御用繁ニ付取調中増手子として被差出候事

從二位様御散葉昨日之通差上候事

八月廿五日朝晴夕曇

内務局并出納署司事と公廨方諸署司事との筆並未被差立候處、就中
當作署閑雇等者公廨家職相持之役席ニ而時々列席等有之差湊之廉
々不少ニ付 早々其沙汰相成候様御詮議可被下候事 九月廿五日 内務局

(162)

乗馬 興丸秋行き
知事様御乗馬、直様藩庁江御出、第二字御帰殿被遊○興丸様第八字

御發途、萩地江御越被遊候○鮎二百喉萩より献上、内五十大御裏ニ
被為進、其余召上り之引当御手置、尚両家從・近侍頂戴被仰付候事

從二位様御散葉差上候事○御菓子御詰替御廻し致候事

八月廿六日

知事様御朝其他御定之通、夕方御菓子召上り

從二位様御散葉昨之通、御機嫌相遂々御快被為在候事

(163)

八月廿七日雨

知事様前日之通

從二位様御足痛次第第二御快く被為在候事、御散葉召上り候事

八月廿八日曇

知事様前日之通

從二位様御吸物・御肴二種御廻し之事○御散葉昨日之通召上り候事

(164)

八月廿九日曇

騎兵稽古

知事様第六字騎兵塾御出御運動、第九字御出庁、二字御帰殿、夕方御菓子召上り候事

蕎麦

從二位様御散葉召上候事、例之通そは御廻致候事

(165)

(空白頁)

(166)

九月朔日雨

知事様朝御拝、夕方御菓子召上り候事○例之通御夕飯後物御廻し致候事

從二位様御散葉昨日之通○御夕飯後物御吸物・御肴二種御廻し

之事

九月二日雨

知事様御定刻御出庁、第三字御帰殿○今日より九字御出庁・三字御帰殿と御定被仰出候事○御拝

(167)

從二位様御散葉召上り候事、レモン式瓶御廻し致候事

レモン

九月三日晴夕雨

騎兵稽古

知事様御拝済騎兵塾御出、直様明倫官ニおゐて御用被聞召候事但三ノ日明倫官御用日之事

ビール

從二位様御散葉昨日之通召上候事○ビール壺瓶御廻し致候事

九月四日雨

蒲鉾

知事様朝御拝、第九字御出庁、第三字御帰殿○昨日かまほこ萩に到

(168)

来御手置申付置候事

從二位様御散葉昨日之通召上候事○御夕飯後物御廻し致候事

九月五日曇

大御前様誕生日
鯛

林万樹多
小沢伊織
檜崎

知事様御拝、御定刻藩庁へ御出、第一字御帰殿、夕第五字より大御裏へ御出、第九字過御帰殿被遊○今日大御前様御誕生日ニ付、御二所様御催相二而御肴被進候事○鯛一折御交肴豊浦様より被進候事○鯛一尾林万樹多江頂戴、老尾小沢・檜崎江頂戴、御交肴ハ近侍々医江頂戴被仰付候事

(月日下書)

八家 右藩庁江之諸願書等從前家来ノ名前を以被差出来候所、御詮義之趣有之、向後当人ノ名前ニ而差出候様被仰付候段御沙汰相成候処、当人より之名前と有之ニ付而ハ勿論主人ノ名前ニ而被差出儀と相心得、左候ハ、諸願書共ニ士族一統之文儀ニ而可然哉、此段御伺申越候間、何分之趣御勿紙を以御沙汰可被下候、以上 九月五日 士族支配処

(月日右および欄外書入、右回答勿紙等)

本書申出之通士族一統之文儀ニ而可然候、尤寛書ニ而も支配頭江被差出候筋ニ被仰付候事

從二位様御葉昨日之通○ヒア壹瓶御廻し致候事
(169)

九月六日雨

知事様朝御拜、御乗廻し被遊、夕方御菓子被召上候事

從二位様御散葉召上り候事

九月七日雨

知事様御拜、例刻方藩庁へ御出、第三字御帰殿

從二位様御散葉昨日之通
(170)

九月八日雨

(月日下書入)

材木方手子老人 右豊栄神社・野田村御住居御普請ニ付、先達而致申出被差出候處、当節別而御用繁御間ニ相兼候間、尚又前書之通被差出候様、尤現名之儀ハ当署に軍事局江望出可申候間、旁御沙汰可被下候事 九月八日 當作署
本書申出候之通被仰付候事

知事様第八字御出門ニ而潮音寺江御参詣被遊、御帰懸ケ直様藩庁

へ御出、第三字御用済方騎兵塾江御出、五字御帰殿

從二位様御葉昨日之通

九月九日晴

(171)

知事様御拜被遊、御二度御一菜増ニ而召上り、御夕飯後物御吸物・

御肴三種差上候事

從二位様御散葉昨日之通、御夕飯後物御肴三種・御吸物廻候事

九月十日晴

知事様朝御拜御定刻方藩庁へ御出、三字御帰殿

從二位様昨日之通御散葉召上り候事

(172)

九月十一日晴

知事様朝御拜、第八字と三丸様御同道、御乗切ニ而問田江御茸狩被

乗馬
問田
茸狩り
茸汁

遊、同所家来益田何某方御休、御二度被召上、御茸御汁ニ而三丸様

御一同差上ケ、夕二字御帰之事○今日水仁老人・御煮方老人問田

鮎
武田伊兵衛

江御先越ニ而罷越、御式度御弁当之御飯於彼方仕構いたし候事○

鮎三十武田伊兵衛方内献、萩方到来ニ付入御覧、内十五尾大御前様

江内々被進、其余御手置ニ而御三度召上り候事

(173)

九月十二日晴

知事様御拜、九字三十分御出片、三字三十分御帰殿之事○昨夜半、萩

越ケ浜漁
鯛・鱸

地より興丸様越ケ浜ニ而御獵之鯛式尾・鱸三喉御差送り被成

入御覧、今御三度ニ被召上候事、別ニ鯛式尾・鱸二喉御前様江

御内献ニ而、御裏江御廻し致候事○今日御式度御弁当之節、昨日之

鮎残り之分差上候事

從二位様御散葉昨日之通

九月十三日晴

(174)

騎兵稽古
文学寮
知事様第六字三十分明倫官江御出、騎兵御稽古被遊、引続キ文学寮下
等会被聞召、直様於同処御用御聞被成、三字過御帰殿、夕方御拝

從二位様御散葉昨日之通差上候事○御肴二種・御吸物御廻し之事

九月十四日陰

慈芳院
スルメ
知事様朝御拝後御定刻御出庁、三字御帰殿○対州慈芳院様
方スルメ三重箱入組ニ而御到来、入御覽御裏へ廻し

從二位様御散葉昨日之通

(175)

九月十五日陰

鯉・鮎
北川清助
知事様御拝後定刻藩庁へ御出、三字御帰館○鯉二尾・鮎五十北川
清助方内献候事、鯉一喉ハ御三度ニ召上り、其余ハ御手置候事○御

芋椎
交肴三尾徳山様方被進二付、家從・御近侍・御侍医江頂戴被仰付
○芋椎三袋、興丸様萩御城山御遊ニ而御拾之分、御注文之柿、奥
村隼太取帰り入御覽、御裏江御廻し致候事○御夕飯後物御廻し
致し、夜中御下り御台司ニおみて頂戴之事

從二位様御散葉昨日之通、御夕飯後物御肴三種・御吸物御廻し致候事

(176)
九月十六日曇

鮎
薄鋒
野村屯
知事様朝御拝、第十一字頃方大御裏江御出、一字三十分御帰殿、今日御
二度御弁当大御裏ニ於而被召上、昨日之鮎差上候事○例年之通御上り
料之鮎五十尾萩より到来、内二十五尾今日大御裏江御持参ニ而被進、
其余御手置、御三度ニも被召上候事○萩江御注文之薄鋒五枚、野村
屯方書状相添到来二付、御裏へ御廻し致候事

從二位様御散葉昨日之通被召候事○御小納戸方御夕飯後物御廻

生見魂代料

しニ相成候二付、先達而御預ケ之生見魂代料之分、御肴一種増ニシテ

(177)

差廻候事

九月十七日雨

知事様御定刻藩庁御出、四字御帰殿被遊候事

從二位様御散葉昨日之通

(月日下書入)

徳山御奥様御附家從中 右司務之御用をも兼掌被仰付候事、「同断司務福嶋
与四郎・野村葛二 御改正二付可被免当職旨候事○林寿之進 右内唐署
檢使暫役被仰出候事
芳寿院様御付杉恒太郎 被免当職、禎之允様御付被免当職、芳寿院様御附權庶務
被仰○福嶋祐蔵 被免当職、禎之允様御付權庶務被仰候事
両御裏・徳山御裏附老女中 右御改正二付是迄之名唱を廢せられ、更ニ女中頭被
相唱候様被仰付候事「同断若年寄・女中臈頭右 同断二付是迄之名唱を廢せられ、
更ニ側頭と相唱候様被仰付候事○両御前様家從中 司務兼掌被仰付候事、吉屋權
左衛門・山泉彦左衛門・井上半三郎・悪弥九郎 御改正二付司務被免候事

九月十八日

市中乗馬
知事様御拝、第九字を市中御乗廻し、直ニ御出庁、三字御帰殿

(178)
従ニ様御散葉召上り候事

九月十九日雨

知事様御定之通御拝、御出庁御定刻御帰殿○御夕飯後物御廻し、
六戸三郎・杉孫七郎
東京へ被差登候六戸三郎・杉孫七郎被召出頂戴被仰付候事

従ニ位様御散葉昨日之通召上り候事

九月廿日晴

知事様御拝御出庁御定之通

(179)
従ニ位様昨日之通召上り候事

九月廿一日晴

休日なれ共、毎年廿二日休息ニ付
御出庁之事

清未藩知事
知事様御拝、御出庁御定刻之通、夕四時御帰殿○昨夜清未藩知

事様当地御出、今日於藩庁御対顔被為在、夕三字過当御殿

江御出、於御裏御夕飯後物被差出、夜七字御帰り被為在候事、但

御夕飯物御裏御催合ニ被差出、御表より八肴二種御仕向候事、

御交肴九尾清未様を御土産として御到来ニ付、御手置致置候事

(180)
従ニ位様御散葉昨日之通

九月廿二日

乗馬
知事様朝御拝、第八字御出門桜島辺御乗廻し、梶原治人方御休

桜島
梶原治人

主上降誕・君
上正誕生日

ミ御弁当被召上、其近辺之山ニ而御茸狩被遊、一字三十分御帰
(明治天皇) (毛利元徳)
り之事、主上御降誕・君上正御誕生日ニ付、例之通御一菜増御夕

飯後物御廻し致候事○当年を本日当御附士族・卒族中江御酒頂
戴被仰付、士族御附於御台司頂戴、筆者給仕其外御膳夫・御徒士
等ハ於筆者部屋同断、卒族中ハ御茶部屋ニ於て同断之事

○御交肴七尾大御前様を今日之御祝として到来ニ付御三度ニ
被召上

梶原治人

(181)

其餘ハ頂戴被仰付候事○今日御乗廻之節、梶原治人鯉・鮒取交
内献ニ付御三度之節被召上、其餘御手置申付候事○今日御獵之松
茸御裏江致御廻し候事○御交肴御二方様御催相ニ而大御裏江被為
進、御裏ニて取計相成候事

天長節

従ニ位様 天長節ニ付御酒肴御廻し候事○御散葉昨日之通

九月廿三日晴

招魂場
乗馬

知事様朝御拝、第八字を招魂場江御出、直ニ明倫官御出御乗馬被遊、
御用済之上、第三字を藩庁ニ於て支配頭・各局少参事其外被

(182)
召出御酒頂戴被仰、六字御帰館之事

従ニ位様御散葉昨日之通

九月廿四日晴

琉球芋

知事様御定刻藩庁御出、三字御帰殿之事○琉球芋、大島管

佐藤寛作

事佐藤寛作より内献、御手置致候事

從二位様御散葉昨日之通差上候事

(183)

九月廿五日晴

知事様前日之如し

從二位様昨日之通

九月廿六日晴

杉民治
大学講義

知事様朝御拜、第十字杉民治罷出、大学御会講御聞被遊、他無事

從二位様御二度後之御出門二而木戸方へ御出被遊、夜十二字御帰殿被
(184)

遊候事○御散葉昨日之通

九月廿七日晴

知事様御拜、御出庁・御帰殿共御定刻之通

從二位様御殿中無事

九月廿八日晴

騎兵稽古

知事様明倫官御出御騎兵運動、直様御出庁、四字過御帰殿
後、御拜之事

(月日下書入)

(中山忠光) (嵯峨公室) 前(中山忠能)

故侍從殿御女阿仲様御事、中山從一位殿方願談有之ニ付、知事様

御養ニ被仰付候事 九月廿八日

阿仲様御事、来月四日爰元御発途東京御帰被成候事

准円寺 右向後御位牌処ニ付而御仕成ハ被差際、被対院家地候格式ハ在来之通
被仰付候事

(186)

從二位様今日より御休葉被遊候事○御二度後御供揃二而

龜井戸

龜井戸辺江御出被遊、薄暮御帰殿被遊候事

九月廿九日晴

豊栄神社

知事様御拜、御定刻藩庁御出、夕方明日豊栄神社御祭祀ニ

大和舞

御執行之大和舞試舞御覧被遊、六字前御帰殿之事

從二位様御殿中無事

(187)

九月晦日晴

豊栄神社秋祭

知事様朝御拜、今日豊栄神社御秋祭ニ付、昨日夜方御別火御

表二而御静寝、十字豊栄神社江御参詣、第六字三十分

御祭事相済、御帰殿被遊候事

從二位様御夕飯後物御吸物・御肴三種、御酒とも致御廻候事

十月朔日晴又雨

宇津木島
井上小豊後

知事様御拜被遊、第九字御出門ニ而木島御出被遊、井上小豊後方御小

休御弁当被召上、大雨ニ付第一字御帰路雨小降り、第三字御帰

鶴

殿、松茸小豊後方内献致、御裏江御廻し致置候○鶴志羽出納署方差

出、御三度ニ被召上、残り八家従・裏家従・近侍・々医中江頂戴、

鶴志羽毛利(厚族毛利)一格内献ニ付、大御前様江御内進之事

從二位様七時御供揃ニて御参朝被遊、夕方紀州邸ニて条公其外御招

請被成、夜ニ入御帰殿之事

十月二日曇

知事様御拜其外御定例之通、三字御帰殿

鴨・塩鯛

從二位様御供揃ニ而御参内被遊、夕六字過御帰殿○鴨志羽・塩鯛

勉三・与次右衛門へ頂戴被仰付候事

(月日下書入)

故侍從殿御女お仲様御事、御養ひニ被成進候様ニと中山從一位殿方再忒

御頼談有之候付、此度知事様御養ひ被成候、此段及御達候様ニとの御事

○一筆致啓上候、然者経健殿海上無滞去月十七日東京被致着被致候

段申来候、右為御知如此御座候 恐惶謹言 十月二日 家令御中 岩国家令

十月三日晴

知事様御拜、明第七字三十分明倫官御出、第十二字御帰殿被遊、御朝
ハ御弁当之事

(月日下書入)

毛利隆聖

妙悟様御三百廻忌御法事、来月六日之朝於潮音寺御正命日之格を以輕御

供養被仰付候段、祭祀局方申出、且惣觸をも発ス

知事様御事来ル八日御往来共凡五日之御積ニ而徳山御越被遊候段、惣觸御支
藩様方へ内務局方達ス

從二位様、昨天朝より御頂戴之御菓子御廻し致候事

十月四日晴

お中様

知事様御拜、其他前日之如し○昨日お中様東京江御帰りニ付御菓子
御仕向いたし候事

(右条文下書入)

一筆致啓達候、然者故侍從殿御女お仲様御事、御養ひニ被成進候様ニと

中山從一位殿方御頼談有之、知事様御養ひニ被成候段被仰出候、依之別紙

之通御伺相濟、過ル朔日御勤相濟申候ニ付、從二位様江申上候之御取計可被

成爲其得御意候 恐惶謹言 十月四日 河野周助・草刈七郎右衛門・河野尚人・

小川信祐様宛

ボードウィン 從二位様洋医ホドエン被召出診察被仰付○御茶菓子・御酒被下候事

(月日下書入)

徳山知事様・お万寿様・岩国知事様・順正院様・重吉様・清末知事様・

御奥様 右当豊榮神社三百年御祭祀之節ハ御代拜を以御神

納物被成候付、奉札を以御挨拶被仰入候

十月五日晴

知事様御拜、其外藩庁御出前日ニ同し○夕方大御前様当御裏

江御出被遊候ニ付、御夕飯後物御肴二種・御吸物、御裏方ハ御肴

一種・御吸物、此日ハ御催相ニて御夕飯後物附候事

德大寺実則 從二位様昼後御供揃ニテ德大寺様へ御出被遊、夜二入御帰館之事

十月六日晴

問田 知事様朝御拜、第八字三十分より御歩行ニ而問田辺御出、益田孫槌
家来方ニ而御小休、山上ニ而御弁当、第一字頃御乗切ニ而御帰り、
松茸御取帰り、大御前様江松茸・しめじ合して十斤、御前様十五
斤御内々進せられ、小沢伊織・近侍・々医迄も頂戴○夕方於御裏
御庭菊花拝見被仰付候事

三谷三九郎
同登三郎
福羽文三郎

從二位様御書院御出座、三谷三九郎・同登三郎被召出御目見被仰付
候事、御菓子一箱充福羽文三郎・三谷父子方内献御廻し致候事○
御夕飯後物同断

十月七日晴

潮音寺 知事様御拜、第八字御出門ニ而潮音寺御参詣被遊、直様藩庁へ御出
被遊、御帰懸大御裏へ御出被遊候、御定刻過御帰殿之事、徳山様
も御出之事

(月日下より本文への書入)

○從二位様御帰藩之儀知御願御聞届相済ニ付、当月中旬東京御発駕被遊
候段御到来有之候事 内意触之事
○豊浦知事様欽麗院様へ当七月方九月迄度々之使者御相参奉札を以被仰入
○徳山知事様へ八月方九月迄御使者之御挨拶奉札を以被仰入
○豊浦知事様へ智鏡院様御遺物御挨拶知事様從二位様方奉札之事

從二位様御夕飯後物御吸物・御肴二種御廻し致候事

(193)

十月八日晴

元徳徳山行 知事様御拜済、第九字藩庁江御出被遊御用被聞召、十二時前御帰被成、
左候而御式度後方御発駕、徳山江御越被遊候ニ付、御乗切ニ而三田
尻江第五字御着、御本陣御茶屋之事、但、鯖山ニ而御小休之事

(月日下書入)

御式度後方御発駕三田尻御一泊、明九日御乗艦ニ而徳山へ被遊御出候事
○御徒役、此度御改正ニ付御引せ被成、給仕役江右用筋兼勤被仰付候段、
家從河北一江書渡相済候事

(本文下・後書入)

從來清末様御難渋ニ付、御合力として銀九貫目之辻年々被
立進来候処、朝廷江御付出も相成苦數様被相考候付、如何
可被仰付哉、早々御詮議可被下候事 会計局
御家禄之内を以可被立進候事

容光院様御一周忌御法事、来ル十四日之朝、於
輕キ御茶湯執行被仰付候事

梨

從二位様へ梨壹籠、岩倉様方御到来ニ付、御廻し致候事○御交肴越前
様方御到来ニ付、家從・近侍江頂戴被仰付候事

十月九日雨

大殿様御帰藩之儀、御支藩様御屋敷番呼出申達ス

(194)

知事様第七字三十分御乗切ニ而問屋口迄御出、夫方スルツプニ而軍
艦雲揚丸へ御乗組被遊、第十字拔錨、第十一字三十分徳山濱崎江
投錨、直様御揚陸、船場御小休、御馬ニ而常侍院江御着、御二度
召上り候事、但、興丸様御同行被遊候事○御膳一汁三菜徳山様方御

三田尻発
雲揚丸
徳山濱崎着
常侍院

徳山藩知事

(毛利元蕃)

仕向被成候事○第四字頃徳山知事様御出、御菓子・茶等差出、第五字過御帰被遊候事○夜中御酒召上り、御吸物二通り・御肴三種之事

從二位様御到来之御菓子、大番へ頂戴被仰付候事

十月十日曇

大成寺

(195)

(大成寺)

新式銃陣上覽

知事様第八字御出門二而、興丸様御同道大乘寺江御参詣被遊、御帰路学校江御出講釈御聞被遊、夫々調練場江御出、新式銃陣

被遊御覽御帰館、御二度被召上候而、第三字方徳山御館江御出被遊、

御裏江御出、第十一字頃御帰館、御寝所被遊候事○御菓子二重万

万寿姫
鹿・鴨

寿姫様江被進○御菓子二重お万寿様方、鹿老足徳山知事様方

鴨二羽 (ツマ) 内献之事

從二位様十一字御供揃二而王子辺御出被遊、夕五字御帰殿被遊候事

瑞応寺

十月十一日雨

(毛利斎庭側室)

玉温院様御一周忌御法事、来十六日之朝於瑞応寺
輕御茶湯執行被仰付事

(196)

徳山藩大参事・少参事

知事様徳山藩大参事・少参事御目見被仰付被仰聞有之○

御目見

鴨老羽国貞廉平江頂戴被仰付○酒三升・鹿老足雲揚

丸江被下○第十二字方近辺御廻見○午後徳山知事様御同

道二而政事堂御臨座○夕方徳山御裏へ御暇乞として御出

○夜中御酒・御吸物二通り、御肴三種之事

梨

從二位様御夕飯後物御吸物・御肴二種御廻し之事○梨志籠
岩国様江被為進候事

十月十二日

玉温院様御一周忌御法事、来ル十六日之朝於瑞応寺
輕御茶湯執行被仰付候段内意達

(197)

徳山苑

知事様第七字御出門雲揚丸江御乗込、第九字拔錨、第十一字

花浦着

三十分花浦江御着艦、直様御揚陸、御茶屋御着被遊候而

御二度召上り候事○夕方学校江御出被遊講釈聴聞、直様

銃陣上覽

まり府松原二て銃陣御覽被遊、第五字頃御帰殿○御菓

子老箱・御茶出し老箱徳山御裏方被進、御重一組徳山

知事様方被進候事

從二位様八字御供揃二而御参内被遊候事○御夕飯後物御廻し之事

十月十三日雨

從二位様当月中旬東京発駕被成、御歎として江本牧太
使者御勤申上

(198)

第一三四大知事様第七字三十分三田尻御茶屋御出門、第一・第三・第四大隊此度

帰山

東京被差登候二付御門前二而拝謁被仰付、直様御乗切二而鯖山御小

休、第十一字山口藩庁へ御出、第三字五十鈴御殿御帰殿○御菓子御

茶出シハ御前様江被進、鴨老羽ハ大御前様江被進候事

十月十四日晴夕雨

潮音寺
知事様朝御拝、御定刻藩庁へ御出、今日者於潮音寺容光院様御一

容光院二周忌
周忌御法事二付、御用済方御廻り懸御寺参被遊、第五字帰殿

岩国知事様・順正院様・重吉様へ知事様・両御前様・徳山御奥様方知事様海上無障
去月十七日東京被成御着候段、御知せ二付御奉札を以御歡被仰入候
知事様へ塩鯛一桶、境省太郎帛在と交代二付岩国方被進

正親町殿御娘女を豊浦様方兼而御所望被成度段被仰入置、九月廿六日表方御所望被仰
入候処、可被任其意段、御使者御取遣被成之由、御内使者を以御知二付、不取敢本御
歡使者有之候事

十月十五日晴
知事様へ鴨五羽、興丸様へ御干菓子一箱、右徳山御出被遊
御越候御礼としテ、以御使者被差上御内使者桜井香織

知事様朝御拝、其他御定之通、夕方御夕飯後物召上り候事

元蕃殿方於万寿殿方、從二位様御帰藩御願済二付御歡御使者有之、増野与三右衛門

十月十六日晴

知事様朝御拝被遊、御出庁無之事

全 十七日晴

鴨
知事様朝御拝、昨日徳山様方鴨五羽被進候二付、式羽大御前様へ被進、

小沢伊織
櫓崎殿衛
壹羽ハ小沢伊織・櫓崎殿衛へ頂戴被仰、式羽ハ御食上り余被差置候

鯉
事○鯉参百興丸様方殿様・御前様江三田尻方被進、百五十御裏江御

筒井真吾
廻し、百之五十之内二十筒井真吾頂戴、残り近侍之者頂戴○塩鯛

騎兵稽古
壹桶岩国知事様方被進、家從・近侍へも頂戴被仰付候事○第七字騎

兵塾江御出御稽古、直様藩庁へ御出被遊、第三字御帰殿之事

十月十八日晴

知事様御拝被遊、今日者藩政御改革二付権大参事御役御断申出候

○徳山様方鹿壹疋到来御手置申付置候

十月十九日曇

知事様朝御拝、例刻藩庁へ御出、第三字御帰殿○興丸様江牛肉

差送られ候事○昨日之鹿頂戴被仰付候事

(上部欄外書入れ)

諸局江達
今廿日御前様江、兼而
御案内申上候面々、御
殿々々罷出御歡申上、
爰元不居合面々之
儀ハ披露状を以申上候
様被仰付候事
十月廿日

今廿日、御前様御安産御男子御誕生被遊候事、惣布令「」

十月廿日晴

豊栄神社御信号宣命、今日内藤次郎左衛門守護二而東京より下り
御入社被為済候事
権大参事杉孫七郎・権少参事福島吉右衛門御霊供出勤候事

知事様御拝并豊栄神社江御参詣之處、今昼第一字、御前様御

(元徳二男・三郎)

安産御男子御誕生被遊候二付、御忌被為在候故、御名代河北一相勤候

事○御定刻藩庁江御出被遊、御定刻御帰殿、直様御裏へ御入、無間御

帰り被遊候事○於御台

(34) 司御肴二種二而御酒頂戴被仰付、家従を始庭衛迄頂戴被仰付、御裏方も頂戴被仰付候事

十月廿一日晴

知事様御出庁無之、夕方家従・裏家従・近侍・々医迄於御前御酒頂戴被仰付、御内仏様御拝

十月廿二日晴

(35) 在役之面々、血忌之節ハ出勤差控来候へ共、御詮議之趣有之向後不及用捨候事
但、神祭被行候節ハ可憚段ハ勿論候事

知事様朝御拝、御定刻藩庁へ御出、第四字御帰殿、御菓子・御酒召上り候事

(上部欄外書入れ)

一御初穂代青蛭三百疋
但、五歩引付のし片木居ニシテ

三ノ宮 今八幡
伊勢 祇園
多賀 今天神
厳島 諏訪
山王 熊野

右此度從二位様御帰藩ニ付、御代参ヲ以前書之通被相備候条、仕出之可被成御沙汰候、以上

十月廿二日
中村文右衛門様
揚井孫右衛門様
三人

ヒヤシ
御上京御帰藩之節、御初穂区々有之所、去ル辰ノ年御上京之節之通、御從來トモ十社江青蛭三百宛ニ被差戻候間、以来区々無之様仕口之事

騎兵稽古

(36) 知事様朝御拝、第七字ヲ騎兵塾江御出被遊、直様明倫館ニおゐて

第五大隊上

御用被聞召、第五大隊昨日東京方帰藩ニ付、大隊運動御覽被遊、第五字頃御帰殿○夕方御菓子、夜中御酒差上候事

十月廿四日時雨夕晴

隆元公・輝元公・秀就公御霊、向後御仏祭被差止御神祭被仰付候、触沙汰被仰付候事

(37) 知事様朝御拝、御定刻藩庁江御出、第四字御帰殿、夕方御菓子召上り、夜中御酒召上り候事

十月廿五日晴

知事様朝御拝、第三字御出庁、定刻御帰殿○御菓子夕方御入之上ニ而召上り、夜中御酒召上り候事

(月日下、本文行間書入れ)

諸御祈禱從來諸所神社仏閣ニおゐて執行被仰付候所、御詮議之趣有之、一統廃止被仰付候、尤不被差止候部ハ改而沙汰被仰付候事
但、仮令御国恩或ハ冥加之ため於下目力ニ而執行せしめ候ハ、供物・巻数等上納之儀一切被差留候事、一上々様御身柄并御座土神社・御敷地神社等ニ而被仰付、自然其他ニ而臨時被仰付候節ハ一時限り之御仕法ニ被仰付候事

(38) 十月廿六日晴

知事様騎兵塾江御出被遊候事○御拝済、御出生様御七夜且御名附二付家扶罷出、御附中江御名目録拜見被仰付候而、夕方家扶・大監

騎兵稽古
御七夜
御名附

察・家従・裏家従・御近侍・々医等於御前御酒頂戴被仰付候事○御
二度御膳老汁五菜召上り、御赤飯召上り候事

(28)

十月廿七日晴

知事様神仏様御拝被遊候事○御定刻藩庁へ御出、例刻御帰殿、

御入二而御菓子召上り、御三度之儀ハ当分於御裏召上り候事

(月日下書)

今般御出生之御男子様茂丸様と被称候段、内務局方知せ有之達ス、
大殿様御帰国ニ付御供人数關所通行之儀、是迄御両殿様御從來之節
之通り、人別姓名達し三不及一手々々人員相達通行被仰付候事 十月廿日
今般御出產之御男子様、茂丸様と被称候事

十月廿八日晴

知事様御拜、御定刻藩庁へ御出被遊、例刻御帰、御三度於御裏召

(月日下書)

大殿様御事、昨廿七日中三田尻御着艦被為在候御都合之由申出付、不取敢参事
其外江前通興丸様三田尻御永住御成候様被仰出候事
御前様被遊御安座候付士族中本人計、知事様・從二位様江御歛為可申上、来月五
日朝六ツ時より四ツ時迄、五十鈴御殿御式台・萩明倫館

(補注欄)

(上部欄外書入れ)

手控
御出生様江

御太刀一腰

御馬 一疋

干鯛 一箱

御太刀一腰

御馬 一疋

経健殿方

順正院殿方

重吉様方

経健申上候、今般御七夜御祝
儀目出度奉存候、依之此者
を以目録之通進上仕候
重吉様方茂同様ニ被差上候

知事様

御前様江

從二位様

大御前様江

江干鯛

、 、 、

干鯛一箱元

||

【令和元年度終】